

勉誠社

訓点語学会 会員様対象 特別割引のご案内

全品**20%OFF**

割引クーポンコード: **b496c022f9**
(使用期限: ~2025年12月28日)

謹啓

日頃より弊社をお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。

このたび、会員様対象の特別割引セールを行うことになりました。

当リストの新刊書籍をはじめ、既刊から在庫僅少タイトル(勉誠出版発行含む)まで、全品が対象です。

この機会にぜひともご購入をご検討くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

謹白

●ご注文について●

- ・弊社ウェブサイトよりご注文を承ります。

<https://bensei.jp>

各種クレジットカード、paypal(クレジットカード・デビットカード)でのご決済が可能です。
ぜひご利用くださいませ。

割引クーポンコード: **b496c022f9** (使用期限: ~2025年12月28日)

こちらの10ケタの英数字を、必ずご入力ください！

未入力の場合、割引が適用されず、定価でのご請求となります。ご了承ください。

- ・メール添付、FAX、電話でもお受けしております。
ご氏名・ご住所・電話番号・公費／私費の区別・公費の場合は必要書類・宛名・日付の有無をお知らせください。
- ・送料
6,000 円 (税込) 未満の購入 → 送料 600 円
6,000 円 (税込) 以上の購入 → 送料無料
(※海外への配送に関しては、実費を頂戴します)

***ウェブサイト以外の方法によるご注文の際は、
訓点語学会の会員であることをお知らせください。**

●ご連絡先

Mail info@bensei.jp
電話 03-5215-9021
FAX 03-5215-9025

より詳細な「研究書 新刊・近刊のご案内」が
右のQRコードからダウンロードいただけます。



【勉誠社】研究書 近刊・新刊書籍リスト								
2024～2025年刊行分								
	書名	著者名	刊行年月	ISBN	定価（税込）	割引価格	注文数	
■ 日本語学・言語学 ■								
	動的視点からの日本漢字音史研究	石山裕慈 著	2025/10	38007-8	11,000	8,800		
	訓点語と訓点資料 第一五五輯	訓点語学会 編輯	2025/10	38101-3	4,950	3,960		
	日本人は漢文をどう読んだか―直読から訓読へ	湯沢質幸 著	2024/05	38006-1	3,520	2,816		
	論究日本近代語 第3集	日本近代語研究会 編	2024/04	38523-3	16,500	13,200		
	楷書の秘密―「字様」が発見されるまで	西原一幸 著	2024/02	38005-4	4,180	3,344		
■ 歴史・文化財・美術史・思想史 ■								
近刊	高山寺本 明恵上人夢記訳注	奥田 勲・平野多恵・前川健一・立木宏哉・小宮俊海・野呂 靖 編	2025/10	31022-8	8,800	7,040		
近刊	新装版 書籍流通史料論 序説	鈴木俊幸 著	2025/10	32077-7	8,800	7,040		
近刊	宋代中国都市の形態と構造 新装版	伊原弘 著	2025/10	32079-1	4,950	3,960		
近刊	新装版 近世蔵書文化論 地域〈知〉の形成と社会	工藤航平 著	2025/09	32075-3	8,800	7,040		
近刊	中世地下文書論の方法と実践	春田直紀 編	2025/10	32076-0	9,900	7,920		
	會澤正志齋と水戸学の国体論	藤野博 著	2025/09	32073-9	3,300	2,640		
	醍醐寺の法流と史料	佐藤亜莉華 著	2025/07	31023-5	8,800	7,040		
	古代木簡の世界―地方木簡がひらく古代史	森公章 著	2025/07	32066-1	3,080	2,464		
	壮（チワン）族の歴史と文化	田畑博子 編	2025/07	33007-3	6,600	5,280		
	外から見た江戸時代の書籍文化―写本・版本・在外書籍	ピーター・コーニツキー 著	2025/07	32067-8	9,900	7,920		
	朝鮮の国家形成と東アジア	武田幸男 著	2025/07	32070-8	13,200	10,560		
	和様と唐様の建築史学史	野村俊一 編著	2025/07	35004-0	8,800	7,040		
	徳川美術館蔵「遊楽図屏風（相応寺屏風）」は語る―將軍家光の政治と「邸内遊楽図」の誕生	黒田日出男 著	2025/07	32068-5	4,180	3,344		
	古文書研究 第99号	日本古文書学会 編	2024/06	32409-6	4,180	3,344		
	社寺建築を知るための用語集―日本の歴史的建築を考える	瀧島正士 著／文化財建造物保存技術協会 編集協力	2024/06	35003-3	4,180	3,344		
	宋代士大夫官僚の基層社会と構造	伊原弘 著	2025/05	32049-4	13,200	10,560		
	増補改訂版 道教美術の可能性	齋藤龍一・鈴木健郎・土屋昌明 編	2025/04	37019-2	3,300	2,640		
	中国の女性演劇―越劇とジェンダー	中山文 著	2025/03	37018-5	8,250	6,600		
	新装版 武蔵武士を歩く―重忠・直実のふるさと 埼玉の史跡	北条氏研究会 編	2025/03	32062-3	2,970	2,376		
	武蔵武士を巡る―東京・神奈川の史跡と伝説	北条氏研究会 編	2025/03	32055-5	4,180	3,344		
	茶の湯の文化史	五味文彦 著	2025/03	32060-9	2,640	2,112		
	貸本問屋と貸本文化―娯楽的書籍の出版・流通・受容	松永瑠成 著	2025/03	32063-0	11,000	8,800		
	道教文化と日本―陰陽道・神道・修験道	日本道教学会 編	2025/03	31020-4	4,180	3,344		
	江戸庶民の読書と学び 増補改訂版	長友千代治 著	2025/02	32065-4	5,280	4,224		
	古文書研究 第98号	日本古文書学会 編	2025/01	32408-9	4,180	3,344		
	地方史誌から世界を読む―地方史誌から世界を読む	小二田章 編	2025/01	32064-7	8,800	7,040		
	帝鑑図と帝鑑図説―日本における勸戒画の受容	小助川元太・薬師寺君子・野田麻美・水野裕史 編	2024/11	37017-8	16,500	13,200		
	武蔵武士を巡る―東京・神奈川の史跡と伝説	北条氏研究会 編	2024/12	32055-5	4,180	3,344		
	近世日本邪正論―江戸時代の秩序維持とキリシタン・隠れ／隠し念仏	大橋幸泰 著	2024/11	32058-6	11,000	8,800		
	看聞日記とその時代―好奇心旺盛な皇族・伏見宮貞成が語る中世社会	園部寿樹 著	2024/10	32059-3	4,620	3,696		
	荘園制再編と中世日本	小川弘和 著	2024/10	32057-9	8,800	7,040		
	源氏絵研究の最前線	稲本万里子 編著	2024/10	37016-1	14,300	11,440		
	織田信長文書の世界―永青文庫 珠玉の六〇通	公益財団法人永青文庫・熊本大学 永青文庫研究センター 編	2024/09	32054-8	3,080	2,464		
	増補改訂版 東インド会社とアジアの海賊	東洋文庫・斯波義信・平野健一郎・羽田正 監修／	2024/09	32056-2	3,520	2,816		
	醍醐寺文化財研究所研究紀要 第24号	醍醐寺文化財研究所 編	2024/09	31302-1	2,750	2,200		
	都市鎌倉の展開と鶴岡八幡宮の社人集団	佐藤博信 著	2024/09	32050-0	8,800	7,040		
	日本中世史論集	森茂暁 著	2024/09	32053-1	13200	10,560		
	料理の日本史	五味文彦 著	2024/09	32045-6	2640	2,112		
	ハナシ語りの民俗誌	川島秀一 著	2024/08	33006-6	3520	2,816		
	開かれていた鎖国―入り船と出船	片桐一男 著	2024/08	32046-3	8800	7,040		
	新装版 日本建築の歴史的評価とその保存	山岸常人 著	2024/08	32052-4	18700	14,960		
	教育勅語―少年昭和天皇への進講録	杉浦重剛 著／所功 解説	2024/07	32051-7	1320	1,056		
	広益体 妖怪普及史	伊藤慎吾・氷厘亭氷泉・式水下流・永島大輝・幕張本郷猛・御田鉄・毛利恵太 著	2024/07	32040-1	3,520	2,816		
	古文書研究 第97号	日本古文書学会 編	2024/06	32407-2	4,180	3,344		
	和紙を科学する 製紙技術・繊維分析・文化財修復	大川昭典 著	2024/06	35002-6	4,620	3,696		
	近世長崎渡来人文運史 言語接触と文化交流の諸相	若木太一 著	2024/06	32044-9	14,300	11,440		
	永平廣録 大全―『祖山本 永平廣録』訓読・訳註・補注参究ならびに解題・関連資料集成	大谷哲夫 著	2024/06	31017	71,500	57,200		
	増補改訂版 室町時代の將軍家と天皇家	石原比伊呂 著	2024/05	32047-0	9,900	7,920		

	戦後出版文化史のなかのかストリ雑誌	石川巧 編集代表／ かストリ雑誌編集委員会 編	2024/05	39039-8	3,080	2,464	
	増補改訂版 図像学入門―疑問符で読む日本美術	山本陽子 著	2024/04	37014-7	2640	2,112	
	古文書修復講座―歴史資料の継承のために	神奈川大学日本常民文化研究所 監修／ 関口博巨 編	2024/03	32035-7	4180	3,344	
	三井大坂両店の顧客信用情報―享保一七年から明治二年まで	萬代悠 編	2024/03	32042-5	16500	13,200	
	「見える」ものや「見えない」ものをあわらす ―東アジアの思想・文物・藝術	外村中・稲本泰生 編	2024/03	37012-3	15400	12,320	
	湖北省留日学生と明治日本	王鼎 著	2024/03	32043-2	7700	6,160	
	器と信仰―東アジアの舍利莊嚴をめぐる美術史・考古学からのアプ	加島勝 編	2024/03	32041-8	16500	13,200	
	彰義隊士の手紙―続『新彰義隊戦史』	大藏八郎 著	2024/03	32036-4	22000	17,600	
	日本近世史入門―ようこそ研究の世界へ！【重版出来！】	上野大輔・清水光明・三ツ松誠・吉村雅美 編	2024/02	32034-0	4,180	3,344	
	コレクションと歴史意識 ―十九世紀日本のメディア受容と「好古家」のまなざし	古畑侑亮 著	2024/02	32038-8	11,000	8,800	
	近世後期の海防と社会変容	清水詩織 著	2024/02	32037-1	11,000	8,800	
	朝鮮時代ソウル都市史	高東煥 著／野崎充彦・金子祐樹 訳	2024/02	32039-5	9900	7,920	
	泰山諸神の信仰の展開―東岳大帝から碧霞元君へ	二ノ宮聡 著	2024/01	31018-1	8,800	7,040	
■ 古典文学・文学史 ■							
近刊	杜甫詩論考	後藤秋正 著	2025/10	39054-1	11,000	8,800	
近刊	新装版 源氏物語の話しと表現世界	陣野英則 著	2025/10	39055-8	11,000	8,800	
近刊	新装版 源氏物語論 女房・書かれた言葉・引用	陣野英則 著	2025/10	39056-5	7,700	6,160	
新刊	近松・西鶴・芭蕉と出版文化	長友千代治 著	2025/08	32072-2	8,800	7,040	
品切	極上の仮名 王朝貴族の教養と美意識	五島美術館 編	2025/06	37020-8	2,750	2,200	
	幽憶 新フランス詩華集―ルネサンスから現代まで	竹本忠雄 著	2025/07	39053-4	6,600	5,280	
	日本中世の宗教世界	阿部泰郎 監修／佐藤愛弓・牧野敦司 編	2025/05	31021-1	9,350	7,480	
	中国の名作をどう読むか―真の主題を見極める	下定雅弘 著	2025/05	39048-0	6,600	5,280	
	杜甫研究年報 第八号	日本杜甫学会 編	2025/04	39448-8	2,200	1,760	
	〈絵語り〉の日本中世	井上泰 著	2025/03	37013-0	9,900	7,920	
	和漢韻文文学の諸相	村上哲見 著／浅見洋二・松尾肇子 編	2025/03	39049-7	13,200	10,560	
	本歌取り表現論考	小山順子 著	2025/03	39050-3	12,100	9,680	
	水門 第三十二号	水門の会 編	2025/03	32463-8	3,850	3,080	
	孝謙天皇・称徳天皇御伝	米田達郎・米田雄介 編著	2025/01	32061-6	7,150	5,720	
	日本人の読書 新装版―古代・中世の学問を探る	佐藤道生 著	2025/01	39047-3	11,000	8,800	
	新装版 数と易の中国思想史―術数学とは何か	川原秀城 著	2024/12	81045-2	7,700	6,160	
	正訳 源氏物語 本文対照 第一冊（オンデマンド版） 桐壺／帚木 ／空蟬／夕顔／若紫	中野幸一 訳	2024/12	89571-8	2,750	2,200	
	増補改訂版 明恵上人夢記 訳注	奥田勲・平野多恵・前川健一 編	2024/11	31019-8	8,800	7,040	
	清少納言伝―中宮定子讃仰と鎮魂の生涯	上原作和 著	2024/11	39046-6	5,940	4,752	
	鎌倉幕府の文学論は成立可能か!?―真名本『曾我物語』テキスト論	神田龍身 著	2024/10	39045-9	4,180	3,344	
	日本人にとって教養とはなにか―〈和〉〈漢〉〈洋〉の文化史	鈴木健一 著	2024/10	39044-2	3,850	3,080	
	日本古典文学と中国の古伝承―物語形成の比較文学的考察	三木雅博 著	2024/09	39042-8	11,000	8,800	
	平安朝詩文論集	後藤昭雄 著	2024/09	39043-5	13,200	10,560	
	新装版 正訳 紫式部日記 本文対照	中野幸一 訳	2024/05	39041-1	2,420	1,936	
	ラテンアメリカ文学の出版文化史 ―作家・出版社・文芸雑誌と国際的文学ネットワークの形成	寺尾隆吉 編著	2024/05	39040-4	6,050	4,840	
	中国古典戯曲演劇論	岡晴夫 著	2024/04	37015-4	16,500	13,200	
	球陽外巻 遺老説伝	前村佳幸 校注	2024/04	32048-7	8,800	7,040	
	杜甫研究年報 第七号	日本杜甫学会 編	2024/04	39447-1	2,200	1,760	
	水門 第三十一号	水門の会 編	2024/03	32462-1	3,850	3,080	
	川端康成の曖昧な声―日本語の小説における文体と身体の交点	平井裕香 著	2024/03	39038-1	6,600	5,280	
	本 かたちと文化―古典籍・近代文献の見方・楽しみ方	国文学研究資料館 編	2024/02	30011-3	3,080	2,464	
	本 かたちと文化（電子版）―古典籍・近代文献の見方・楽しみ方	国文学研究資料館 編	2024/02	70011-1	3,080	2,464	
	歴史叙述としての平家物語	塩山貴奈 著	2024/02	39037-4	8,800	7,040	
■ 事典・総記 ■							
近刊	江戸時代の図説事典 訓蒙図彙	小林祥次郎 解題	2025/10	30019-9	11,000	8,800	
新刊	書物学 第30巻 書物から渋沢敬三を読む	神奈川大学日本常民文化研究所 編	2025/09	30730-3	2,200	1,760	
新刊	書物学 第29巻 鳥屋重三郎と日本の出版文化 鳥重手引草	編集部 編	2025/08	30729-7	2,200	1,760	
	書物学 第28巻 相国寺―寺宝が伝える歴史と信仰	相国寺承天閣美術館 編	2025/08	30728-0	2,200	1,760	
	書物学 第27巻 近代製本の100年―明治・大正・昭和	編集部 編	2025/04	30727-3	2,200	1,760	
	書物学 第26巻 古筆見の仕事―真偽の先にあるもの	編集部 編	2025/02	30726-6	2,200	1,760	
	書物学 第25巻 古典籍の文献学―鶴見大学図書館の蒐書を巡る	編集部 編	2024/04	30725-9	2,200	1,760	
	妖怪ブックガイド600	水屋亭氷泉・式水下流 著	2024/07	30017-5	3,080	2,464	
	世界の絵本・作家 総覧	O.L.V.（おおぶ文化交流の杜図書館ボランティア アグループ）・おおぶ文化交流の杜図書館 編	2024/06	30013-7	22,000	17,600	
	アーカイブズ学入門	国文学研究資料館 編	2024/07	30012-0	3,080	2,464	
■ 〈アジア遊学〉 ■							
近刊	309 外圧の日本古代文学史	遠藤耕太郎・濱田寛・吉見健夫 編	2025/10	32555-0	3,300	2,640	
新刊	308 鏡としての日本文学―交響する中日古典	張龍妹 編	2025/10	32554-3	3,520	2,816	
新刊	307 空間と環境の古代東アジア世界史 GISと歴史学・考古学の協 奏	中村慎一・渡部展也・小林正史・菊澤律 子・大川裕子・村松弘一 編著	2025/09	32553-6	3,850	3,080	
新刊	306 建築とオリジナル 創造・継承・解釈	赤澤真理・加藤悠希・米澤貴紀 編	2025/08	32552-9	4,180	3,344	

	305 近現代日本を生きるテキスト遺産—モノ×営為×世界	Edoardo Gerlini・河野貴美子 編	2025/07	32551-2	3,300	2,640	
	304 北歐ロマンとナショナリズム—内村鑑三・開拓・民族主義	中丸禎子・田中琢三 編著	2025/07	32547-5	4,180	3,344	
	303 瓦から探る中世寺院	中世瓦研究会 編	2025/05	32549-9	3,300	2,640	
	302 アク・ベシム遺跡を掘る—よみがえるシルクロードの交易都市	山内和也・齊藤茂雄 編	2025/05	32548-2	3,520	2,816	
	301 描かれた法華経—本法寺蔵「法華経曼荼羅図」の時空	原口志津子 編	2025/03	32547-5	3,300	2,640	
	300 性なる仏教	大谷由香 編	2025/01	32546-8	3,080	2,464	
	299 近代日本の中国学—その光と影	朱琳・渡辺健哉 編著	2024/12	32545-1	3,850	3,080	
	298 無住道曉の拓く鎌倉時代—中世兼学僧の思想と空間	土屋有里子 編	2024/10	32544-4	3,080	2,464	
	297 廃墟の文化史	木下華子・山本聡美・渡邊裕美子 編	2024/10	32543-7	3,300	2,640	
	296 天文学の視点—星を軸に文化を語る	松浦清・真貝寿明 編	2024/10	32542-0	3,850	3,080	
	295 蘇州版画—東アジア印刷芸術の革新と東西交流	青木隆幸・板倉聖哲・小林宏光 編	2024/09	32541-3	3,520	2,816	
	294 秀吉の天下統一—奥羽再仕置	江田郁夫 編	2024/06	32540-6	3,520	2,816	
	293 彷徨する宗教性と国民諸文化 —近代化する日独社会における神話・宗教の諸相	前田良三 編	2024/02	32539-0	3,300	2,640	
■図書館学・アーカイブ■							
近刊	学校図書館サービス論	金沢みどり・雪嶋宏一 監修／ 金沢みどり・望月道浩 編著	2025/10	30403-6	2,970	2,376	
新刊	大宅壮一文庫解体新書Ⅱ 雑誌図書館を活用した研究	阪本博志 編	2025/09	30021-2	3,300	2,640	
	調べ物に役立つ 図書館のデータベース 2025年版	小曾川真貴 著	2025/07	30016-8	2,200	1,760	
	デジタルアーカイブ入門—つかう・つくる・支える	柳与志夫・渡邊英徳 責任編集	2025/06	30015-1	4,620	3,696	
	「メタデータ」のパーспекティブ	池内有為・木村麻衣子 責任編集	2025/06	30306-0	4,950	3,960	
	図書館の日本史 増補改訂版（ライブラリーぶっくす）	新藤透 著	2025/06	30018-2	4,180	3,344	
	学校図書館概論	金沢みどり・雪嶋宏一 監修／ 雪嶋宏一・須永和之 編著	2025/05	30402-9	2,750	2,200	
	デジタルデータの長期保存・活用—その理論と実践	嘉村哲郎 責任編集	2025/03	30305-3	4,620	3,696	
	デジタル時代のコレクション論（デジタルアーカイブ・ベーシック）	中村覚・塚坂裕紀子 責任編集	2024/10	30304-6	3,850	3,080	
	図書館員をめざす人へ 増補改訂版	後藤敏行 著	2024/10	30014-4	2,640	2,112	
2023年							
	物語る仏教絵画—童子・死・聖地	山本陽子 著	2023/10	37011-6	11,000	8,800	
	紙のレンズがひらく古典籍・絵画の世界	江南和幸・佐藤悟・横井孝 （新コディコロジー研究会） 編	2023/11	39036-7	4,950	3,960	
	国宝「三十帖冊子」 修理から見えてきたもの	総本山仁和寺 監修／宇都宮啓吾 編	2023/12	31012-9	13,200	10,560	
	増補改訂 江戸の異性装者たち—セクシュアルマイノリティの理解のために	長島淳子 著	2023/12	32033-3	3,520	2,816	
	古文書研究 第96号	日本古文書学会 編	2023/12	32406-5	4,180	3,344	
	本朝麗藻詳注	柳澤良一 著	2023/11	39030-5	30,800	24,640	
	東アジアの王宮・王都と仏教	堀裕・三上喜孝・吉田歆 編	2023/10	32032-6	13,200	10,560	
	続々 戦国武将逸話集—訳注『常山紀談』巻十六～二十五 （オンデマンド版）	湯浅常山 原著／大津雄一・田口寛 訳注	2023/10	95443-9	2,970	2,376	
	別冊 戦国武将逸話集—訳注『常山紀談』拾遺 巻一～四・ 附録 雨夜燈（オンデマンド版）	湯浅常山 原著／大津雄一・田口寛 訳注	2023/10	95444-6	2,970	2,376	
	江戸時代初期出版年表〔天正十九年～明暦四年〕（オンデマンド版）	岡雅彦・市古夏生・大橋正叔・岡本勝・ 落合博志・雲英末雄・鈴木俊幸・堀川貴司・ 柳沢昌紀・和田恭幸 編	2023/10	80452-9	27,500	22,000	
	重要文化財 東福寺五百羅漢図 修理と研究	石川登志雄 編	2023/10	37010-9	24,200	19,360	
	日本人の読書—古代・中世の学問を語る	佐藤道生 著	2023/09	39033-6	13,200	10,560	
	機巧の文化史 異聞—海を渡った三台のからくり人形	村上和夫 著	2023/08	32031-9	4,950	3,960	
	天地の間に己—人生きてありと思ふべし—熊沢蕃山「コスモポリテス」の地平	大橋健二 著	2023/08	31016-7	4,950	3,960	
	古文書研究 第95号	日本古文書学会 編	2023/07	32405-8	4,180	3,344	
	大谷哲夫先生傘寿記念論集 禅の諸展開	大谷先生傘寿記念論集編集委員会 編	2023/07	31015-0	11,000	8,800	
	野村太一郎の狂言入門	野村太一郎・杉山和也 著	2023/07	37005-5	3,080	2,464	
	近世戯作の〈近代〉（オンデマンド版） —継承と断絶の出版文化史	山本和明 著	2023/07	99174-8	9,900	7,920	
	地方史誌から世界史へ—比較地方史誌学の射程	小二田章 編	2023/06	32028-9	8,800	7,040	
	霊峰の文化史—世界遺産・富士山と世界の山岳信仰	秋道智彌 著	2023/05	33005-9	3,520	2,816	
	江戸時代の貸本屋 —庶民の読書熱、馬琴の創作を支えた書物流通の拠点	長友千代治 著	2023/05	39029-9	5,500	4,400	
	朝川図と蘭亭曲水図—イメージとテキストの交響	野田麻美・静岡県立美術館 編	2023/05	37009-3	10,450	8,360	
	モノと権威の東アジア交流史—鑑真から清盛まで	シャルロット・フォン・ヴェアシュア 著	2023/04	32022-7	5,280	4,224	
	深草瑞光寺所蔵 元政上人資料集 —近世京洛寺院の学問とネットワーク	岡雅彦・落合博志・桑名法晃・長田和也・ 中前正志・那須陽一郎・原雅子・村木敬子 編	2023/03	31013-6	22,000	17,600	
	黄泉の国との契約書—東アジアの買地券	稲田奈津子・王海燕・榊佳子 編著	2023/03	32030-2	4,180	3,344	
	二世紀の川劇—文化資源化の視点から	江玉 著	2023/03	37007-9	7,480	5,984	
	グレーゾーンと帝国—歴史修正主義を乗り越える生の営み	高網博文・門間卓也・関智英 編	2023/03	32027-2	5,720	4,576	
	文と書—中国書字思想の探究	亀澤孝幸 著	2023/03	37008-6	8,800	7,040	
	古代日本の儀礼と音楽・芸能—一場の論理から奏楽の脈絡を読む	平間充子 著	2023/02	37006-2	11,000	8,800	
	明治・大正・昭和の時代劇メディアと時代考証	大石学・時代考証学会 編	2023/02	32025-8	3,520	2,816	
	日ソ戦争史の研究	日ソ戦争史研究会 編	2023/02	32026-5	13,200	10,560	
	鎌倉時代禅僧喫茶史料集成	舘隆志 著	2023/02	31014-3	14,850	11,880	
	中世醍醐寺と真言密教（オンデマンド版）	藤井雅子 著	2023/01	83170-9	10,780	8,624	

	訂正新版 図説 書誌学—古典籍を学ぶ	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫 編	2023/12	30010-6	3,850	3,080	
	今昔物語集の怪異を読む—巻第二十七「霊鬼」	森正人 著	2023/12	39034-3	5,280	4,224	
	正訳 源氏物語 本文対照 第二冊（オンデマンド版）—末摘花／紅葉	中野幸一 訳	2023/12	89572-5	2,750	2,200	
	正訳 源氏物語 本文対照 第三冊（オンデマンド版）—須磨／明石／	中野幸一 訳	2023/12	89573-2	2,750	2,200	
	中国古典文学に描かれた廁・井戸・簀（オンデマンド版）—民俗学的視	山崎藍 著	2023/12	89200-7	9,900	7,920	
	紫式部伝—平安王朝百年を見つめた生涯	上原作和 著	2023/10	39035-0	5,940	4,752	
	比較文学で読む十一の出会い—交差する東西のまなざし	英米文化学会 編	2023/08	39032-9	3,080	2,464	
	紫式部集の世界	廣田収・横井孝 編	2023/07	39031-2	10,780	8,624	
	日本と東アジアの〈環境文学〉	小峯和明 編	2023/07	39018-3	16,500	13,200	
	中国古典をどう読むか—規範からの逸脱、規範への回帰	下定雅弘 著	2023/06	39027-5	4,180	3,344	
	深掘り！紫式部と源氏物語	中野幸一 著	2023/04	39010-7	2,640	2,112	
	平安文学の饗宴	中野幸一 編	2023/04	39028-2	16,500	13,200	
	杜甫研究年報 第六号	日本杜甫学会 編	2023/04	39446-4	3,300	2,640	
	俊頼髓脳全注釈	家永香織・小野泰央・鹿野しのぶ・ 舘野文昭・福田亮雄 著	2023/03	39025-1	16,500	13,200	
	学習院本「藤袴」（神原本傍帖）の書誌学的考察	武藤那賀子 著	2023/03	39023-7	16,500	13,200	
	近世後期江戸小説論攷	山本和明 著	2023/02	39022-0	11,000	8,800	
	伝承と現代—民俗学の視点と可能性	加藤秀雄 著	2023/02	33004-2	8,800	7,040	
	源氏物語歌謡	伊東祐子 著	2023/02	39017-6	7,150	5,720	
	王朝物語論考—物語文学の端境期	横溝博 著	2023/02	39024-4	13,200	10,560	
	谷崎潤一郎の世界史—『陰翳礼讃』と20世紀文化交流	西村将洋 著	2023/02	39020-6	5,280	4,224	
	宣教師の日本語文学 研究と目録	郭南燕 編著	2023/02	39026-8	12,100	9,680	
	フェイク・スペクトラム—文学における〈嘘〉の諸相	納富信留・明星聖子 編	2023/01	39015-2	3,520	2,816	
	文学から環境を考える エコクリティシズムガイドブック （オンデマンド版）	小谷一明・巴田岳人・嵯峨正美・壹生真 弓・ 喜納育江 編	2023/01	89080-5	3,080	2,464	
	世界神話伝説大事典（オンデマンド版）	篠田知和基・丸山顯徳 編	2023/10	80036-1	27,500	22,000	
	江戸時代前期出版年表〔万治元年～貞享五年〕	岡 雅彦 編	2023/03	32029-6	35,200	28,160	
	方言地理学の境界	小林隆・大西拓一郎・篠崎晃一 編	2023/05	38003-0	8,800	7,040	
	292 中国学の近代的展開と日中交渉	陶徳民・吾妻重二・永田知之 編	2023/12	32538-3	3,850	3,080	
	291 五代十国—乱世のむこうの「治」	山根直生 編	2023/12	32537-6	3,520	2,816	
	290 女性の力から歴史をみる—柳田国男「妹の力」論の射程	永池健二 編	2023/11	32536-9	3,300	2,640	
	289 海外の日本中世史研究—「日本史」・自国史・外国史の交差	黄霄龍・堀川康史 編	2023/11	32535-2	3,520	2,816	
	288 東アジアの「孝」の文化史 —前近代の人びとを支えた価値観を読み解く	雫雪艶・黒田彰 編	2023/10	32534-5	3,520	2,816	
	287 書物の時代の宗教—日本近世における神と仏の変遷	岸本覚・曽根原理 編	2023/09	32533-8	3,080	2,464	
	286 近代アジアの文学と翻訳—西洋受容・植民地・日本	波潟剛・西槇偉・林信蔵・藤原まみ 編	2023/08	32532-1	3,300	2,640	
	285 渾沌と革新の明治文化—文学・美術における新旧対立と連続性	井上泰至 編	2023/08	32531-4	3,080	2,464	
	284 近世日本のキリシタンと異文化交流	大橋幸泰 編	2023/07	32530-7	3,080	2,464	
	283 東アジアの後宮	伴瀬明美・稲田奈津子・榊佳子・保科季子 編	2023/06	32529-1	3,520	2,816	
	282 列島の中世地下文書—諏訪・四国山地・肥後	春田直紀 編	2023/05	32528-4	3,300	2,640	
	281 神道の近代—アクチチュアリティを問う	伊藤聡・斎藤英喜 編	2023/03	32527-7	3,520	2,816	
	280 都市と宗教の東アジア史	西本昌弘 編	2023/03	32526-0	3,300	2,640	
	279 上海フランス租界への招待—日仏中三か国の文化交流	榎本泰子・森本頼子・藤野志織 編	2023/01	32525-3	3,520	2,816	
	書物学 第24巻 100年くらい前の本づくり—近代日本の製本技術	編集部 編	2023/04	30723-5	2,200	1,760	
	書物学 第23巻 文化財をつなぐひと・もの・わざ —香雪美術館書画コレクションを支える装幀修理の世界	編集部 編	2023/04	30724-2	1,980	1,584	
	書物学 第22巻 禅寺の学問—相国寺・両足院の知の体系	編集部 編	2023/02	30722-8	1,980	1,584	
	ひらかれる公共資料—「デジタル公共文書」という問題提起 （デジタルアーカイブ・ベーシックス）	福島幸宏 責任編集	2023/11	30303-9	3,520	2,816	
	博物館情報学入門【アート・ドキュメンテーション叢書2】（オンデ マンド版）	E Orna & Ch. Pettitt 著／安澤秀一 監 修／水嶋英治 編訳	2023/09	80172-6	3,850	3,080	
	共振するデジタル人文学とデジタルアーカイブ	鈴木親彦 責任編集	2023/07	30302-2	3,520	2,816	
	デジタルアーカイブの新展開	時実象一 著	2023/03	30009-0	2,310	1,848	

訓点語学会 [編]

平安時代初期から日本において漢文に記入されて来た古訓点を中心に、
広く国語史・文体史・古辞書等の研究をする人々の団体。

くんでんごとくんでんしりよう

訓点語と訓点資料

第一五五輯

一九五四年の刊行以来、訓点資料、訓点語(漢文訓読語)をはじめ、
文体史、音韻史、辞書史などに関する論文、資料紹介、解説文、索引など、
これまでに約500編を公表、広く利用されている学術雑誌。
年2回刊行。

[目次]

京都国立博物館蔵『梵字形音義』カラー口絵
京都国立博物館蔵『梵字形音義』―解題と影印……………宇都宮啓吾
高知県安田八幡宮蔵『大般若波羅蜜多經』の訓点と注記……………佐々木 勇
漢字音の認定と字音仮名遣いをめぐって……………石山裕慈
副詞「一向」の史的变化と変化のメカニズム……………姚堯
呉語系中国資料の日本語音写にみられる
陰声韻と入声韻の転換……………王 竣磊

第一三二回訓点語学会研究発表会発表要旨
彙報

令和六年度会計報告

令和六年度予算

訓点語学会会則

訓点語学会機関誌「訓点語と訓点資料」投稿規定

出版元変更のお知らせ

第二五五輯より、出版元が勉誠社に変更となりました。引き続きご愛読のほど、何卒宜しくお願い致します。

《定期のお申込をいただいている書店様へ》
一五四輯の搬入時に、汲古書院様ならびに当社より版元変更のご連絡をさせていただいておりますが、今後定期改正等のご連絡は、勉誠社宛にお願い致します。

《バックナンバーについて》
勉誠社へ直接ご用命くださいませ。詳細ご相談させていただきます。

定価 4,950 円(本体価格 4,500 円)

B5判・並製・176頁
ISBN978-4-585-38101-3 C3380
2025年10月刊行

書 名	部 数
訓点語と訓点資料 第一五五輯 訓点語学会 [編]	定価 4,950 円(本体価格 4,500 円) B5判・並製・176頁 2025年10月刊行 ISBN978-4-585-38101-3 C3380
ご送付先ご住所 (通信欄)	

石山裕慈「著」

動的視点からの

日本漢字音史研究

日本語話者にとって、日本漢字音とはいかなるものであったのか

日本漢字音とは、単なる経年変化の中で受動的に採用されたものではなく、何らかの使用意識の下で、当時いくつか存した選択肢の中から、自覚的・無自覚的に選択された結果のものである。

本書ではこの「動的」な一面に着目し、個々の資料に出現する漢字音を分析し、相互に比較・対照。当時、どのような音が選択され、背後にどのような論理・力学があったのかを探り、中世以降の日本漢字音、すなわち日本語の漢字の音読みの歴史的变化について考察する。

目次

凡 例

第1部 中世日本漢字音の種々相

- 第1章 漢籍訓読資料における漢字音の実態(1)——『論語』の場合——
第2章 漢籍訓読資料における漢字音の実態(2)——『莊子』の場合——
第3章 漢籍訓読資料における漢字音の実態(3)——『遊仙窟』の場合——
第4章 日本漢文における漢字音の実態(1)——『本朝文粹』の場合——
第5章 日本漢文における漢字音の実態(2)——『世俗諺文』の場合——

第2部 「漢語音」の視点から見た日本漢字音の変化

- 第1章 呉音字音直読資料における「漢語音」をめぐる諸問題
第2章 片仮名交じり文における漢語声調——親鸞自筆三帖和讃の場合——
第3章 漢籍訓読資料における漢語声調——『本朝文粹』の場合——
第4章 『四座講式』における漢語声調の変化
第5章 『補忘記』の漢語アクセント
第6章 漢語声調・アクセント史研究をめぐる諸問題

第3部 漢字音の日本語化と学問的干渉

- 第1章 室町時代の『論語』古写本の清濁
第2章 浄土三部経音義の漢字音
第3章 法華経音義における入声字の表記——日本漢字音史資料としての側面から——
第4章 字音仮名遣いの整備と現状——蒙韻字の場合——
第5章 日本漢字音における「字複数音」の歴史

参考文献一覧／後書き／索引

著者紹介

石山裕慈(いしやま・ゆうじ)

神戸大学大学院人文学研究科教授。
専門は日本語史(特に日本漢字音史)。
主要業績は「貞享版『補忘記』の漢語アクセント」(『国語と国文学』85-3、2008年)、「『遊仙窟』各本に記入された日本漢字音の位置づけ」(『国語と国文学』90-7、2013年)、「『漢字音の一元化』の歴史」(『国語と国文学』95-10、2018年)(以上本書所収)、沖森卓也・肥爪周二編『シリーズ日本語ライブラリー・漢語』(朝倉書店、2017)、「日常使用の日本漢字音の歴史——『日葡辞書』と現代日用語辞典との比較を通して——」(『国語と国文学』99-9、2022年)、「『和英語林集成』第三版の漢字音についての一考察」(『神戸大学文学部紀要』50、2023年)など。

定価 12,100円
(本体価格 11,000円)

A5判・上製カバー装・432頁
ISBN978-4-585-38007-8 C3081
2025年10月刊行

書 名	部 数
動的視点からの日本漢字音史研究 石山裕慈「著」	部
定価 12,100円 (本体11,000円) A5判・上製カバー装・432頁 ISBN 978-4-585-38007-8 C3081 2025 年 10 月刊行	
ご送付先ご住所(通信欄)	

勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

高山寺本

こうさんじほん
みょうえしようにん
ゆめのきやくちゅう

明恵上人 夢記訳注

奥田 勲
平野 多恵
前川 健一
立木 宏哉
小宮 俊海
野呂 靖

編著

目次

【口絵】
「明恵上人夢記」第十篇 毘盧遮那の夢
「明恵上人手鏡」建久九年十月夢記

緒言：奥田 勲
凡例

I 影印
（明恵上人夢記）第十篇

II 解題
明恵「夢記」概観

高山寺本解題

III 訳注

凡例

高山寺本（訳注）
聖教等所載の夢記（目録・訳注）

IV 資料

『華嚴仏光三昧観冥感伝』訓読
夢記年表

明恵略年表

固有名詞解説
参考文献

夢記関連地図
事項索引

人名一覧

あとがき

謝辞
編著者・執筆者一覧

おくだ いさお：聖心女子大学名誉教授
ひらの たえ：成蹊大学文学部教授
まえがわけんいち：
創価大学大学院文学部研究科教授
たちき ひろや：聖心女子大学ほか非常勤講師
こみや しゅんかい：
大正大学非常勤講師／智山伝法院非常勤講師
のろ せい：龍谷大学心理学部教授

本書の特長

- 高山寺に所蔵される明恵上人夢記の影印・解題・翻刻・訓読・現代語訳・考察を収載した画期的な基礎文献。
- 夢・思想・宗教・歴史などの分析・検討に広く有用な資料を提供し、文学・思想・宗教・歴史・心理学・日本語学・古筆学・美術等、さまざまな研究分野に裨益する必携の一書。
- I「影印」には、「明恵上人夢記」第十篇全体の影印を掲載した。
- II「解題」では、「明恵上人夢記」の全体像と研究史を概観。また、高山寺蔵の夢記について詳細な解説を加えた。
- III「訳注」では、各夢記について【翻刻】【訓読】【現代語訳】【語釈】【考察】を掲載した。
- IV「資料」には、研究のツールとして有用な【華嚴仏光三昧観冥感伝】訓読【夢記年表】【明恵略年表】【固有名詞解説】【夢記関連地図】【参考文献】【人名一覧】【事項索引】を収載した。

明恵上人とは…

一一七三～一二三二。鎌倉時代の華嚴宗の僧。三十四歳に後鳥羽上皇の院宣により、梅尾を賜り、ここに高山寺が開創される。著書に、『摧邪輪』など多数。

定価 8,800 円（本体価格 8,000 円）

A5判上製カバー装
580頁（カラー口絵2頁）
2025年10月刊行予定
ISBN978-4-585-31022-8 C3015

書名		冊数
注文書	高山寺本 明恵上人夢記訳注 奥田 勲・平野多恵・前川健一・立木宏哉・小宮俊海・野呂 靖【編】	冊
	定価 8,800 円（本体価格 8,000 円） A5判上製カバー装・580頁（カラー口絵2頁） 2025年10月刊行予定 ISBN978-4-585-31022-8 C3015	
関連書		
増補改訂版明恵上人夢記訳注 奥田 勲・平野多恵・前川健一【編】 ISBN978-4-585-31019-8 C3015 2024年11月刊行		
定価 8,800 円（本体価格 8,000 円） A5判上製カバー装・584頁（口絵2頁）		
ご送付先ご住所（通信欄）		

増補改訂版

みようえしようにん・ゆめのき・やくちゅう

明恵上人夢記訳注

奥田 勲
平野多恵
前川健一

編

おくだ・いさお…聖心女子大学名誉教授
ひらの・たえ…成蹊大学文学部准教授
まえがわ・けんいち…東洋哲学研究所研究員

定価8,800円(本体価格8,000円)

A5判上製カバー装・580頁(口絵2頁)
2024年10月刊行
ISBN978-4-585-31019-8 C3015

八〇〇年前の夢の記録

鎌倉仏教に異彩を放つ僧・明恵の精神世界を探る基礎資料。
中世の歴史・信仰・美術・言語、
ひいては広く日本文化を解明するための画期的成果。
2015年に刊行後、早々に品切となった同書を増補改訂。
新出の夢記3点を含む増補改訂を施した決定版！

本書の特長

- これまで全編未紹介であったものを含め、研究上重要である一〇点の夢記を影印掲載した。
- 「明恵上人夢記」の全体像と研究史を概観。高山寺蔵本および、重要な諸本について詳細な解説を加えた。
- 本書収録の計七四点についての書誌・内容などの基本情報を一覧できる目録を収録。
- 「訳注」項では、各夢記について【翻刻】【訓読】【現代語訳】【語釈】【考察】を掲載した。
- 【翻刻】は、夢記の現物調査によって、原態を生かす方法で活字化した。正確な本文の提供は、夢記の根本的研究として極めて価値が高い。
- 【訓読】では、原文に適宜句読点と濁点などを付す。日本語学研究の資料としても有用。
- 【現代語訳】では、初の夢記現代語訳を収録。
- 【語釈】は、その夢記の理解に必要な語句を立項して説明を付した。広く中世文化を解明するための多くの新知見が盛り込まれたものである。
- 【考察】においては、その夢の理解、および機縁や背景を明恵自身の文脈から考察した。
- 【資料】項では、【夢記年表】【参考文献一覧】【人名一覧】【事項索引】を収めた。
- 【夢記年表】には、夢記年表および、関連資料に含まれる夢記の年表を掲載。
- 【参考文献一覧】は、夢記研究に関する論文や研究書を一覧。
- 【人名一覧】は、夢記に登場する人名を抽出して一覧し、説明を付した。
- 【事項索引】は、各夢記に登場する、神仏名、地名、修法名などを抽出して索引とした。

明恵上人とは…

一一七三(一一三三)鎌倉時代の華嚴宗の僧。三十四歳以後鳥羽上皇の院宣により、母尾を賜り、ここに高山寺が開創される。著書に、『摧邪輪』など多数。

【口絵】

建久十年四月十八日夢記(佐藤辰美氏蔵)
建久十年四月十八日夢記紙表
『十六国大阿羅漢因果識見頌』巻頭・巻尾

増補版の刊行にあたって
緒言：奥田勲

I 影印

建永二年、承元三年、建暦元年夢記第四紙・第五紙紙背(京都国立博物館蔵)／建暦三年二月二十九日夢記(法楽寺蔵)／某年正月七日より三十日夢記(個人蔵)／某年某月、二月夢記(陽明文庫蔵)／某年八月夢記(個人蔵)／某年十一月二日夢記(個人蔵)／某年十一月二日夢記紙背(某年十二月十五日夢記(五島美術館蔵)／某年十二月二十九日夢記(石水博物館蔵一号手鑑)／某年三月十八日、去冬比夢記(青井義夫氏蔵)／某年三月五日夢記(和歌山県立博物館蔵)／某年月十二三日夢記(植松明子氏蔵)／夢記(同後夜)(大垣博氏蔵)

II 解題

「明恵上人夢記」について
高山寺本「夢記」と山外本「夢記」／「夢記」をめぐる研究史
山外本「夢記」解説
京都国立博物館蔵本／陽明文庫蔵本／観智院旧蔵本／松浦厚旧蔵本／神田喜一郎旧蔵本／松永耳庵旧蔵本／その他

III 目録

第一部 第四部

IV 訳注

第一部 第四部

V 資料

夢記年表：野呂靖編
高山寺本・山外本夢記／明恵上人行状・その他資料
明恵略年表：野呂靖編
参考文献一覧：小宮俊海編
事項索引：立木宏哉編
人名一覧：小林あづみ編
あとがき：平野多恵・前川健一

書名	冊数
増補改訂版 明恵上人夢記訳注 奥田 勲・平野多恵・前川健一 [編]	定価8,800円(本体価格8,000円) A5判上製カバー装・580頁(口絵2頁) 2024年10月刊行 ISBN978-4-585-31019-8 C3015
ご送付先ご住所(通信欄)	

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

森 公章 [著]

古代木簡の世界

地方木簡がひらく古代史

こだいもっかんのせかい

木簡の出土遺跡は列島の津々浦々に及び、既存の文献史料では説明が難しい地域の様相を探究する手がかりとなる。

地方官衙遺跡出土木簡（地方木簡）を仔細に読み解き、八・九世紀を中心に、国郡制支配の基層となる郡・郡司の動向や「郡的世界」と称すべき在地社会の状況、その上位にある国府や国分寺、国家的な生産施設のあり方など、律令制下の地域の姿を探る。また「郡的世界」から国衙の支配へと展開する十・十一世紀の様相も明らかにする。

木簡の基礎知識や地方木簡を用いた古代史研究の方法論をわかりやすく解説し、具体的な木簡の釈読と文献史料から地方支配の様相の展開を立体的に描く、画期的入門書。

著者プロフィール

森 公章（もり・きみゆき）東洋大学文学部教授。

専門は日本古代史、特に地方支配の歴史の変遷、東アジアの国際関係、木簡学などを中心に研究している。主な著書に『地方木簡と郡家の機構』（同成社、二〇〇九年）、『地方豪族の世界——古代日本をつくった三〇人』（筑摩書房、二〇一三年）、『平安時代の国衙機構と地方政治』（吉川弘文館、二〇一四年）、『渡海僧がみた宋代中国——参天台五臺山記を読む』（八木書店、二〇一五年）などがある。

目次

はじめに 木簡とは何か／本書の構成
木簡表示の凡例
プロローグ——地方官衙遺跡出土木簡の概要——
木簡の出土状況／出土遺跡と点数の概要／木簡の年代／世界の木簡事情／発掘と整理・保存

一 七世紀史と木簡

1 評の成立と支配構造◎評制の「発見」と課題／評制の成立過程と官制／評と五十戸／評と郡の相違／七世紀木簡の出土例／評務の遂行◎2 筑前国嶋郡戸籍の世界◎現存する最古の戸籍／元岡・桑原遺跡群出土の木簡／郡司の戸の様子／大宝二年戸籍をめぐる問題／国分松本遺跡出土木簡から考える

二 「郡的世界」の実像

1 郡務と木簡——兵庫県豊岡市出石町袴狭遺跡群出土の木簡——◎遺跡の概要と木簡の留意点／狭義の文書木簡／記録簡と郡務の諸相／その他の郡務◎2 郡家出先機関の諸相(1)——陸奥国磐城郡の場合——◎里(郷)の位置づけ／郡家出先機関とは／陸奥国磐城郡の場合／大領と農業経営／文書行政の執行／大猿田遺跡出土の木簡◎3 郡家出先機関の諸相(2)——加賀国加賀郡の場合——◎加賀郡の様相／畝田・寺中遺跡出土の木簡／田領横江臣と畝田村／加茂遺跡と傍示札木簡の出土／田領丈部氏と深見村◎4 地域支配と木簡◎青木遺跡の概要／I区出土の木簡／IV区出土の木簡／春時祭田の世界

三 国レベルの機関と木簡

1 但馬国府跡関連遺跡出土の木簡◎但馬国府跡関連の遺跡／題籤軸と紙の文書／郡務と国務の連関◎2 観音寺遺跡と国府木簡の様相◎観音寺遺跡出土の木簡／国務関係の文書／阿波国の支配構造と国務の遂行／荷札木簡の到来・製作と国府◎3 国分寺と木簡◎国分寺の建立／但馬国分寺跡出土の木簡／安芸国分寺跡出土の木簡◎4 生産遺跡と木簡◎長登銅山跡と木簡の出土／文書木簡の検討／荷札木簡と物資の到来／銅付札の諸相／大仏造立の様相

四 国衙の支配への展開

1 農業経営と木簡◎畿内有力者の多角経営／労働力編成の諸相／出挙と農事◎2 「郡的世界」から国衙の支配へ◎地方官衙遺跡と木簡の行方／青谷横木遺跡の概要／十・十一世紀の木簡／徴税と勸農／国衙の出納所・収納所と木簡／中世的国衙機構への展望

エピソード

——木簡の研究手法と鍛錬——

研究ツールの広がり／
「目から赤外線が出る」とは

参考文献

あとがき

索引(本書で触れた木簡出土の遺跡／
地方木簡を理解するための関連書)

定価 3,080 円
(本体 2,800 円)

A5判並製カバー装
224頁+カラー口絵4頁
ISBN 978-4-585-32066-1 C1021
2025年8月刊行

書 名

古代木簡の世界

地方木簡がひらく古代史

森 公章(著)

部 数

定価3,080円(本体価格2,800円)

A5判・並製カバー装・224頁+カラー口絵4頁
2025年8月刊行
ISBN978-4-585-32066-1 C1021

部

ご送付先ご住所(通信欄)

勉 誠 社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

外圧の 日本古代文学史

共立女子大学文学部教授
聖学院大学教授
四谷学院講師
遠藤耕太郎・濱田寛・吉見健夫 編

日本文学史は、外国文化の圧力——外圧——という脅威と向き合う心の葛藤の歴史である。

古代日本の人々は、文字（漢字）や仏教・中国思想の外圧、

国家制度や白村江の戦いと壬申の乱といった政治的・軍事的な外圧、

文学作品や唐物と呼ばれる輸入品の外圧など様々なかたちで現れた

外圧としての中国文化に対して、どのように葛藤し、そこから何を創造していったのか。

『万葉集』や『源氏物語』などをはじめとする和歌や散文作品、漢詩文を、

奈良と平安の二つの時代に分けて取り上げ、

国際環境や国際感覚の異なる時代背景のもと、中国文化と格闘し、

換骨奪胎、あるいは克服、憧憬しながら、文学を創造した人々の心の様相を探る。



序言：遠藤耕太郎

総論 古代前期…外圧としての漢字の向き合い…遠藤耕太郎
総論 古代後期…「外圧」から「内なる規範」への展開…濱田寛

第Ⅰ部 古代前期（奈良時代まで）

『古事記』『酒楽の歌』について——宴のうたと場…岩田久美加

唐の外圧と額田王…遠藤耕太郎

柿本人麻呂と『外圧』…高松寿夫

山部赤人による呪性の回復…遠藤耕太郎

『万葉集』遣唐使関連歌考

漢語漢文世界でやまとうたをよむこと…岩田久美加

和銅—神亀年間の国際環境と大伴旅人

香椎浦と松浦川にみる風流心…井実充史

七〜九世紀東アジアの国際環境と日本漢詩…井実充史

第Ⅱ部 古代後期（平安時代）

『土佐日記』における漢詩の表記方法…中島輝實

『伊勢物語』はどう人の心をかたちづくるか

——外圧としての仏教を視座に…咲本英恵

『うつほ物語』の列挙表現——賦の視点から…宮谷聡美

『枕草子』と漢籍——中国文化の（外圧）と宮廷社会の（内圧）の均衡…中田幸司

『源氏物語』の音楽——紅葉賀巻にみえる「外来の音楽の内面化の方法」…岡田ひろみ

桐壺巻における長恨歌引用の意義——桐壺帝の寵愛とその典型化…吉見健夫

平安時代の漢詩文——転換期としての宇多朝とその前後…濱田寛

あとがき…吉見健夫

関連年表

定価 3,300円・本体3,000円
[アジア遊学No.309]
A5判・並製カバー装・256頁
2025年10月刊行
ISBN978-4-585-32555-0 C1390

書名		冊数
外圧の日本古代文学史 遠藤耕太郎・濱田寛・吉見健夫（編）		
定価 3,300円・本体3,000円 [アジア遊学No.309] A5判・並製カバー装・256頁 2025年10月刊行 ISBN978-4-585-32555-0 C1390		冊
ご氏名／ご送付先ご住所（通信欄）		

鏡としての

日本文学

交響する中日古典

アジア遊学 308

張龍妹 [編]

「国文学」を超えて――

日本文学を紐解くと、そこには中国文学の影響が少なからず散見される、それらを比較することは、中国古典の変容のあり方を発見することにつながり、さらに日本文学・文化の特徴を改めて見出すことになる。お互いの国の文学を研究することで、それぞれが響きあい、自国の文学を学ぶことのみでは見いだせなかった新たな魅力、意義を知ることにつながる。日本文学を研究する中国人研究者たち、そして長年中国で日本文学研究・教育に携わった日本人研究者たちによる古典文学の交響。日本文学を「中国」という他者としての視座から再考し、「国文学」の本質を問い直す。

編者プロフィール

張龍妹(ちようりゅうまい)……北京外国語大学北京日本学研究センター元教授。専門は『源氏物語』を中心とする平安仮名文学。主な著書に『源氏物語の救済』(風間書房、二〇〇〇年)、『日本文学 古典篇』(高等教育出版社、二〇〇八年)、『平安朝宮廷才女の散文文体文学書写』(光明日報出版社、二〇二一年)などがある。

目次

「序文」鏡としての日本文学――交響する中日古典 ●張龍妹

第1部 漢詩文と仮名文学

「徳」の文学と「あはれ」の文学 ●張龍妹

回文和歌と「釈教歌」の水脈

――「ながきよのとをのねぶりのみなめざめ」の謎を解く ●渡辺秀夫

「凌雲集序」再論――文体の視点から ●王格格

『扶桑集』部類項目再検討 ●廖榮発

菅原定義勸学会詩序考 ●李筱硯

『うつほ物語』俊蔭流離譚における「風」――神仙譚の視点から ●趙小青

『源氏物語』大君物語における女性主体の叙述

――「男せざりし人」型の脱構築 ●馬如慧

日本史書における編年体の変容――『栄花物語』を考えるために ●彭湊

「コラム」平安文学における「身」の意識 ●高木和子

第2部 説話文学と軍記物語

仏伝文学と龍の形象――『釈氏源流』を起点に ●小峯和明

仏典の「僧と美女」の物語の中における伝播と変容 ●趙季玉

説話文学に見る孔子とその弟子たち ●尤芳舟

『今昔物語集』と唐代伝奇における女盗賊の比較 ●邱春泉

東アジアにおける「二十四孝」の資料整理と文字校正 ●趙俊槐

『大倭二十四孝』における継母への孝行の欠如 ●盧俊偉

『太平記』における中国謀士の武人化変容 ●文字博

歴史はいかに語られるか

――朝鮮軍記物における「美人殺し」逸話をめぐって ●覃思遠

「コラム」ミサキについて ●多田一臣

第3部 古典から近代へ

芥川龍之介「支那遊記」に登場する「石黒政吉」とは誰なのか

――南京督軍顧問多賀宗之宅に掛けた「田夫氏の画」の考察をかねて ●曲莉

古典をいかに再生すべきか――川端康成「古都」を読む ●岳遠坤

「国訳漢文大成」の白話小説日本語訳における「両文体」の応用 ●蔡春曉

「伝統演劇」としての越劇の生成――宝塚歌劇との比較を通して ●劉嘉瑤

「コラム」張龍妹先生賛――回想「源氏物語の救済」が世に出た頃 ●神野藤昭夫

編集後記 ●李筱硯

日本文学との出会い――あとがきに代えて ●張龍妹

龍の妹に贈る――あとがきのあとがき ●小峯和明

定価 三、五二〇円(税込)

【本体三、〇〇〇円】

A5判・並製カバー装・三、五二頁

ISBN978-4-585-3254-3 C1390

二〇二五年十月刊行

書名

鏡としての日本文学

交響する日中古典 【アジア遊学308】

張龍妹 [編]

部数

定価 3,520円(税込)・本体3,200円

A5判並製カバー装・352頁
ISBN978-4-585-3254-3 C1390
2025年10月刊行

部

ご送付先ご住所・氏名(通信欄)

勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

ピーター・コーニツキー [著]

外から見た

江戸時代の書籍文化

写本・版本・在外書籍

江戸時代、女性の読書はどのように位置づけられていたのか。
近世初期に勃興した活字印刷は、
なぜ、製版印刷に駆逐されたのか。

日本各地にのこるおびただしい数の写本は、
日本文化史のなかに、どのように位置づけられるのか。

海外の図書館に、なぜ多量の日本書籍が所蔵されているのか、
それはいつ持つてこられたのか。

日本の外からの視点を取り入れることで、
日本における書籍文化の歴史が、より鮮明に見えてくる。

日本の書籍文化史を海外からの視点で読み解き、
学界をリードしてきた

ケンブリッジ大学名誉教授

ピーター・コーニツキーによる

日本書籍文化史講義！

著者プロフィール

ピーター・コーニツキー (Peter Kornicki) 一九五〇年、イギリス、メイデンヘッド生まれ。
オックスフォード大学大学院博士課程修了 (D.Phil.)。二〇一一年、オックスフォード大学文学博士 (D.Lit.) 取得。元ケンブリッジ大学東洋学部長。ケンブリッジ大学名誉教授。専門は日本文化史。主な著書に『海を渡った日本書籍 ヨーロッパへ、そして幕末・明治のロンドンで』(平凡社、二〇一八年) などがある。

目次

凡例
序章 わたくしと日本書籍の研究

第一部 江戸前期——朝鮮本、活字本、女性読者

第一章 近世日本における朝鮮本

第二章 古活字版の終焉

第三章 『源氏物語』・『伊勢物語』と江戸前期の女性読者

第二部 写本の諸相

第四章 写本と転写

第五章 写本の類型

第六章 写本の蔵書と貸借

第七章 禁書の流布

第八章 江戸時代の測量書と古銭書の写本

第三部 海外に流れた日本書籍

第九章 日本書籍の海外流出

——クラブロフト旧蔵の日本書籍を中心に——

第一〇章 フィラデルフィアで刊行された『画本鶯宿梅』

終章 明治文学になった江戸文学

資料紹介 『書物入出』(架蔵)

あとがき

初出一覧

索引(人名・書名)

定価 九、九〇〇円

本体 九、〇〇〇円

A5判並製カバー装・四九六頁

二〇二五年七月刊行

ISBN978-4-585-32067-8 C3020

書名	部数
外から見た江戸時代の書籍文化 写本・版本・在外書籍 ピーター・コーニツキー〈著〉	定価 9,900円 (本体価格 9,000円) A5判・並製カバー装・496頁 2025年7月刊行 ISBN978-4-585-32067-8 C3020
ご送付先ご住所 (通信欄)	

社寺建築を

知るための

用語集

日本の歴史的建築を考える

各地に残された日本の木造建築の構造を理解するための絶好の入門書。

日本の社寺建築は三〇〇年の歴史を持ち、各時代に建てられた様々な建造物が数多く残されている。

それらは建てられた時代や所在する地域の特徴を示しており、日本の歴史・文化を知るための重要な資料となっている。

しかし、これらの木造建築に関わる用語は、単にその数が極めて多いだけではなく、時代や建造物の種類によって

名称・解釈が異なることもあり、研究者ですらとまどう場面も少なくない。

伝統的な木造建築の歴史研究および文化財建造物の保存修理を長年リードしてきた著者が、

日本建築の歴史を考えるうえで重要な用語を豊富な図版資料と共に解説。

カラー口絵
はじめに

第一章 仏堂

第二章 寺院の礼拝空間

第三章 神社建築

第四章 屋根の基本形式

第五章 門

第六章 塔

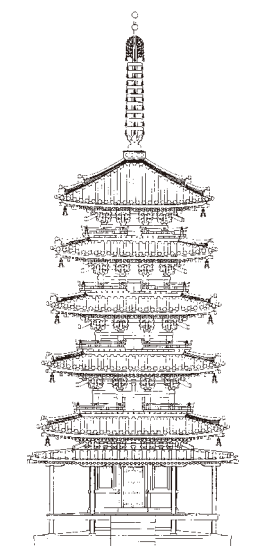
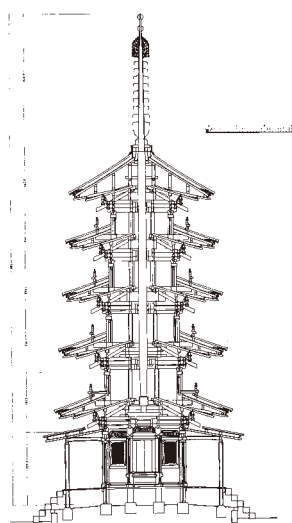
第七章 基礎・軸部

第八章 組物

第九章 軒・架構・天井

第十章 小屋組と野地

第十一章 妻飾



濱島正士

〈著〉

昭和十一年、大阪府生まれ。神戸大学工学部建築学科卒業。京都府教育庁技師、文化庁文化財調査官として文化財建造物の修理・調査に従事。国立歴史民俗博物館教授、別府大学教授を経て、(公財)文化財建造物保存技術協会理事長、会長を歴任。現在、国立歴史民俗博物館名誉教授、(公財)文化財建造物保存技術協会顧問、工学博士。専門は、日本建築(社寺建築史)。主な著書に「日本仏塔集成」(中央公論美術出版、平成十三年)など多数。

文化財建造物保存技術協会〈編集協力〉

定価4,180円・本体3,800円

B5判・並製カバー装
200頁(+カラー4頁)

2025年6月刊行

ISBN978-4-585-35003-3 C0052

書名

社寺建築を知るための用語集

日本の歴史的建築を考える

濱島正士〈著〉文化財建造物保存技術協会〈編集協力〉

冊数

定価4,180円・本体3,800円

B5判・並製カバー装
200頁(+カラー4頁)

2025年6月刊行

ISBN978-4-585-35003-3 C0052

冊

ご送付先ご住所(通信欄)

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

和様と唐様の 建築史学史

建築の様式を、問い直す

「和様」「大仏様」「禪宗様」——中世日本建築を理解するうえで自明とされてきた様式概念だ。しかしその枠組みは、数多の建築がもつ固有の歴史や多層的な意味を、はたして十全に捉えきれているだろうか。そもそも「和様」とは何か。「禪宗様」という言葉が取りこぼすものは何か。

本書は、建築史学の根幹をなすこの問いへ、多角的かつ学際的な視点から肉薄する。

第一部では、曖昧さのなかにあった「和様」の系譜を丹念に辿り、その全体像を再編する。

第二部では、固定観念と化した「禪宗様」を解きほぐし、その内部に潜む「唐様」の痕跡を探る。

二つの討議を中心に、多彩な論考と視点が思考の固定化を打ち破り、新たな研究の地平を切り拓く。日本建築史の現在地を俯瞰し、未来を展望する最前線。

序言

第一部 和様の系譜学——変容を辿り再編する

《討議》

〈和様〉建築の再検討

◎黒田龍二・富島義幸・野村俊一・箱崎和久・溝口正人

《論考》

和様の源流と系譜◎箱崎和久

宮殿・住宅建築における「和様」と折衷◎溝口正人

平安時代の建築様式の再考——鳳凰堂は和様か◎富島義幸

神社本殿形式の分類と変遷◎黒田龍二

《視点》

諸種の「和様」と日本建築史◎野村俊一・和様建築史研究会

第二部 禪宗様をばどく——唐様の痕跡を探る

《討議》

中世建築様式を問い直す——「禪宗様」を中心に

◎上野勝久・奥健夫・永村眞・野村俊一・藤井恵介・光井渉

《論考》

建築史における技術と様式——様式折衷の記述方法◎藤井恵介

日本彫刻史の様式概念

「写実主義」「宋風」および「和様」について◎奥健夫

寺院建築における様式概念の生成◎光井渉

中世寺院建築の意匠とその流通をめぐって

——詰組・台輪・東アジア◎野村俊一

中世鏝阿寺における堂宇と法会◎永村眞

鏝阿寺本堂を通してみた様式の理解◎上野勝久

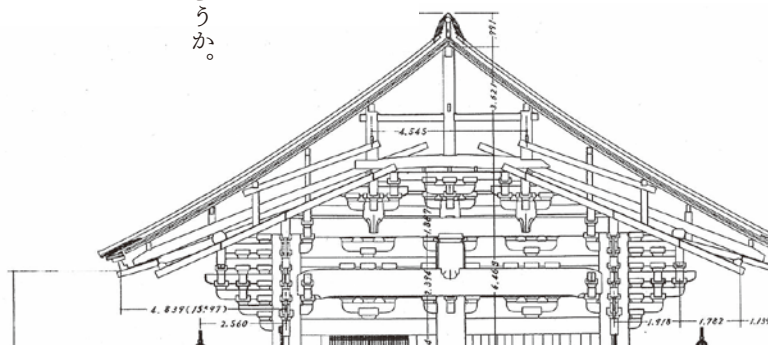
《視点》

中世禅僧と造営・土木知識◎川本慎自

定光寺本堂の昭和修理に示された「唐様」概念

——様式概念と文化財修理の相互補完関係について◎青柳憲昌

あとがき／執筆者紹介



書名

和様と唐様の建築史学史

野村俊一〈編著〉

定価8,800円・本体8,000円

A5判・並製カバー装・544頁

2025年7月刊行

ISBN978-4-585-35004-0 C3052

冊数

冊

ご送付先ご住所（通信欄）

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

佐藤亜莉華

〔著〕

（さとう・ありか）一九九三年生まれ。日本女子大学文学部史学科助教。専門は日本仏教史・寺院史料論。主な論文に「南北朝から室町前期における理性院流と太元帥法別当職の相承——理性院宗助と大覚寺證菩提院光寛の対立」（永村真編『中世寺院の仏法と社会』勉誠出版、二〇二一年）、「金剛王院流の醍醐寺座主輩出と世俗権力」（『ヒストリア』291号、大阪歴史学会、二〇二二年四月）などがある。

醍醐寺の法流と史料

真言宗の中核寺院として、創建以来、長きにわたり展開を続けてきた醍醐寺。

醍醐寺はいかにして組織と文物を守り伝えてきたのか——

密教における秘法の相承により形成される「法流」に着目。

それを縦軸に、法流の存続に関わる諸問題に対応すべく寺院社会内部、

さらには世俗権力との間で行われた折衝の諸相、

また、聖教をはじめとする寺院史料群の生成・活用・相承について検討することで、

中世・近世を通じた醍醐寺の変容を明らかにする意欲作。

序章

第Ⅰ部 中世における醍醐三流

第一章 三寶院門跡満済と報恩院隆源——法流相承をめぐって

第二章 南北朝から室町前期における理性院流内の対立

第三章 金剛王院流の醍醐寺座主輩出と世俗権力

第四章 醍醐寺僧と根来寺僧の交流とその変容

第Ⅱ部 三寶院門跡の変容と実態

第一章 中世・近世醍醐寺にみる「門跡」と諸階層

第二章 醍醐寺の寺内統制と「出世」

第三章 近世三寶院門跡と「法流預」

第Ⅲ部 寺院史料からみる法流相承

第一章 醍醐寺における法流相承と文書・聖教の生成——報恩院隆源を通して

第二章 三寶院義演撰『醍醐寺新要録』の成立にみる寺院史料群の活用

終章

あとがき／初出一覧／索引



定価8,800円・本体8,000円
A5判・上製カバー装・376頁
2025年7月刊行
ISBN978-4-585-31023-5 C3015

書名	冊数
醍醐寺の法流と史料 佐藤亜莉華〔著〕	冊
定価8,800円・本体8,000円 A5判・上製カバー装・376頁 2025年7月刊行 ISBN978-4-585-31023-5 C3015	
ご送付先ご住所（通信欄）	

株式会社勉誠社 ※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

中世地下文書論の 方法と実践

研究概念の構築から射程の拡大、
そして文書実践論へ

中世の地域社会における文書利用の実態を、中央の権門からではなく、

荘園・公領の現地の視点から総体的に把握するために二〇一四年に提起された研究概念「地下文書」。

「地下文書」は日本中世史研究の諸領域の中でどのように位置づけることができるのか。

荘園制研究、村落史研究、都市・商業史研究、在地領主研究など

様々な分野にこの研究概念を適用することで見いだされる論点や課題を提示する。

さらに、文書実践の観点から論じた実証研究の成果に加え、

隣接分野から地下文書論を評価する論考も掲載。

中世地下文書論の成果と課題を体系的に論じ、

その方法論・研究実践の到達点と今後の展望を示す。



定価 9,900円・本体9,000円

A5判・上製カバー装・464頁

2025年10月刊行

ISBN978-4-585-32076-0 C3021

春田直紀

〔編〕

(はるた・なおき)熊本大学大学院人

文社会科学部教授。専門は日本

中世史(生業論・史料論)。主な著書に

『日英中世史料論』(編著、日本経済評

論社、二〇〇八年)、『中世地下文書の

世界——史料論のフロンティア』(編

著、勉誠出版、二〇一七年)、『日本中

世生業史論』(岩波書店、二〇一八

年)、『列島の中世地下文書——諏訪、

四国山地・肥後』(編著、勉誠出版、二

〇二三年)、『中世浦社会の研究』(同

成社、二〇二四年)などがある。

序論 中世地下文書論の方法序説 春田直紀

第一部 日本中世史研究と地下文書

荘園制研究と地下文書 小川弘和

村落史研究と地下文書 村上絢一

都市史・商業史研究と地下文書 大村拓生

中世一揆研究と中世地下文書 奥座勇一

在地と地下のあいだ 佐藤雄基

第二部 中世地下社会の文書実践

地下文書の分類と機能 似島雄一

中世売券にみる文書実践 村石正行

在地寺社文書にみる文書実践 遠江国「大福寺文書」を事例として 朝比奈新

帳簿にみる地下社会と地下文書 榎原雅治

地下文書にみる中世文書の「社会化」——人身売買文書を素材として 高橋一樹

地下文書の生成・変容と権力秩序——近世地方文書への道程 湯浅治久

第三部 隣接分野からみた地下文書論

近世における地下文書論 牧原成臣

伝承文学研究からみた地下文書論 間枝遼太郎

歴史民俗学からみた地下文書論 渡部圭一

西欧中世の「普通の文書」/「灰色の文書」論——自治体会計簿を中心に—— 向井伸哉

書名

中世地下文書論の方法と実践

春田直紀〔編〕

冊数

定価 9,900円・本体9,000円

A5判・上製カバー装・464頁

2025年10月刊行

ISBN978-4-585-32076-0 C3021

冊

ご氏名／ご送付先ご住所（通信欄）

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

小林祥次郎 〓 解題

(こばやししょうじろう) 昭和十三年二月、栃木県栃木市に生まれる。昭和三十五年三月、東京教育大学文学部文学科卒業。平成十三年三月、小山工業高等専門学校教授を退官。主要著書に、『書言字考節用集 研究並びに索引』(中田祝夫と共著、風間書房、同改訂新版、勉誠出版)、『季語再発見』(小学館)、『日本のごとば遊び 新装増補版』(以下すべて勉誠出版)、『梅と日本人』、『日本古典博物事典 動物篇』、『くいのー食の語源と博物誌』、『人名ではない人名録ー語源探索』、『仏教からはみだした日常語ー語源探索』、『遊びの語源と博物誌』、『季語をさかのぼる』など。

江戸時代の
図説事典

KINMO-ZUI

さんもうずい

訓蒙図彙

江戸時代に作られた
わが国最初の絵入り百科事典！

江戸時代初期、寛文六(一六六六)年刊の、わが国最初の図説事典の初版初刷り本を復刻。日本の博物学の歴史に輝く名著として名高く、後続の絵入り事典の模範となった。総語彙数約八千語を収録し、日本語・日本文学、風俗史、博物学史の有力資料であり、一四八四点におよぶ精緻な図は、今日でも図版やデザイン画として様々な利用できる。

二〇二二年に刊行し、好評を得た『江戸のイラスト辞典 訓蒙図彙』が、装いも新たに刊行！

● 影印

訓蒙図彙ー第一〜五冊

天文 禽鳥
地理 龍魚
居処 虫介
人物 米穀
身体 菜蔬
衣服 瓜蒌
宝貨 樹竹
器用 花草
畜獸

● 「訓蒙図彙」解題と索引
索引 解題



定価 11,000円・本体10,000円
菊判・並製カバー装・1168頁
2025年10月刊行
ISBN978-4-585-30019-9 C3001

書名	冊数
江戸時代の図説事典 訓蒙図彙 小林祥次郎〈解題〉	冊
定価 11,000円・本体10,000円 菊判・並製カバー装・1168頁 2025年10月刊行 ISBN978-4-585-30019-9 C3001	
ご氏名／ご送付先ご住所（通信欄）	

株式会社 勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

国宝「三十帖冊子」

さんじゅうじょう
さうし

修理から見えてきたもの

最新の仏教学を学ぶために唐に渡った弘法大師空海が、当地の仏教經典・儀軌類を書写し、日本に隨身秘藏してきた冊子本、国宝「三十帖冊子」。第六世守覚法親王の時代より京都・仁和寺にて尊ばれ、伝持されてきた同書は、空海の入唐中の学問のありかたを伝える密教将来の至宝として、また、空海や橘逸勢ほか、多くの唐の写経生がその書写に関わり、かつ冊子のかたちとして最も古い装訂とされる粘葉装（ちゅうようそう）の日本最古の例として、文化財としても特筆すべき意義を有している。

国宝「三十帖冊子」は、どのように守られ、伝えられてきたのか。

六か年の歳月をかけて行われた修理の全容と、それによって見えてきた新知見を多くのカラー図版とともに紹介。さらには、「三十帖冊子」の伝来と流転、奈良朝經典訓読や漢籍訓読の諸問題、空海の学問と書、

高解像度デジタル顕微鏡による料紙分析と写本学とのコラボレーション、文化財修理のこれまでとこれから等、多角的な観点から「三十帖冊子」を把握する決定版。

掲載図版点数三〇〇点超！

刊行にあたって 総本山仁和寺門跡真言宗御室派管長 瀬川大秀
序言——本書の概要 宇都宮啓吾

第一部 修理・書誌篇

国宝「三十帖冊子」修理報告——修理の概要と調査報告・株式会社松鶴堂
「三十帖冊子」の修理を振り返って・株式会社松鶴堂（書跡担当課 森川洋子）
「三十帖冊子」の料紙に残された痕跡の伝えるもの
——保存修理の視点から 鈴木裕

装訂や料紙から見た国宝「三十帖冊子」 赤尾栄慶
コラム 空海の書——唐からの贈り物 銅島稲子
「三十帖冊子」を飾る染織品 山川曉
料紙を観る——写本学と光学的調査からのアプローチ
石塚晴通・赤尾栄慶・江南和幸・岡田至弘
コラム 文化財情報プラットフォーム
——金剛寺蔵「梵漢普賢行願讃」をめぐる 宇都宮啓吾

第二部 典籍篇

「三十帖冊子」の借覧と返納をめぐる 武内孝善
「三十帖冊子」の仁和寺移動と仁和寺伝持の歴史 朝川美幸
空海将来経論の書写をめぐる
——「三十帖冊子」に関連して 苦米地誠一

仁和寺蔵「三十帖冊子」の訓点から
観た漢籍訓読の一問題 宇都宮啓吾
典籍保存修理の歩み——昭和から令和へ 鈴木裕

定価 二二、二〇〇円（税込）

本体 二二、〇〇〇円（＋税）

二〇二三年二月刊行

A5判上製カバー装・三三六頁（カラー一六〇頁）

ISBN978-4-585-31012-9 C3015



総本山仁和寺 監修 宇都宮啓吾 編

（うつのみや・けいご）1966年生まれ。大阪大谷大学文学部教授。専門は日本語学、仏教典籍学。著書に『四天王寺聖教の世界』（四天王寺宝物館令和三年秋季特別展図録）（監修・執筆、四天王寺勧学部、二〇二二年）などがある。

書名		冊数
国宝「三十帖冊子」 修理から見えてきたもの 総本山仁和寺＝監修 宇都宮啓吾＝編		
定価 13,200円（税込） 本体12,000円（＋税） A5判上製カバー装・336頁（カラー160頁） 2023年11月刊行 ISBN978-4-585-31012-9 C3015		冊
ご送付先ご住所（通信欄）		

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 株式会社勉誠社 TEL.03-5215-9021 FAX03-5215-9025 <http://bensei.jp/>

日本人の読書

古代・中世の学問を探る

佐藤道生 [著]

人びとは何を読み、どのように学んできたのか――

古代・中世の日本において、書物を読み、解釈し、伝えていくことは、限られた人びとにのみ許される特権的な営みであった。

特に中国大陸ないしは朝鮮半島経由で伝えられた漢籍（漢語で書かれた書物）は、国家を支える政治や法、

さらには思想や文化体系を伝える最先端のものとして重要視された。

中国の文化全般を学ぶことを目的とした

これらの学問――漢学――は、国家の制度のなかにも位置付けられ、

それを担う家では、書写・刊行された諸種の漢籍を入手し、独自の学問を形成していった。

書物に残された注釈の書き入れ、来歴を伝える識語、

古記録や説話に残された漢学者の逸話など、

漢籍の読書の高まりをいまに伝える諸資料から

古代・中世における日本人の読書の歴史を明らかにする。

本書ではじめてフルカラー公開する資料

『清涼山伝』○『文選集注』巻七断簡○『文選集注』巻百十一断簡

金澤文庫本『文選集注』巻六十一残簡○『論語』清原業賢書写・加点半

慶應義塾図書館蔵『論語』天文版清原枝賢加点半

『佐保類切』『施氏七書講義』断簡○『佐保類切』『施氏七書講義』残簡

『道德経切』『老子道德経』断簡

著者プロフィール

佐藤道生（さとう・みちお）

一九五五年生まれ。慶應義塾大学名誉教授。専門は古代・中世日本漢学。主な著書に『平安後期日本漢文学の研究』（笠間書院、二〇〇三年）、『三河鳳来寺旧蔵唐暦二年書写和漢朗詠集影印と研究』（勉誠出版、二〇一四年）、「句題詩論考――王朝漢詩とは何ぞや」（勉誠出版、二〇一六年）、「玉葉」に見られる課試制度関連記事の検討」（『変革期の社会と九条兼実――「玉葉」をひらく』勉誠出版、二〇一八年）などがある。

目次

カラー口絵

◎本篇

第一章 古代・中世日本人の読書

第二章 日本に現存する漢籍古写本――唐鈔本はなぜ読み継がれたのか

第三章 古代・中世漢文訓読史

第四章 平安貴族の読書

第五章 藤原道長の漢籍蒐集

第六章 藤原兼実の読書生活――『素書』と『和漢朗詠集』

第七章 養和元年の意見封事――藤原兼実「可依変異被行攘災事」を読む

第八章 『論語疏』中国六世紀写本の出現

第九章 平安時代に於ける『文選集注』の受容

第十章 金澤文庫本『春秋経伝集解』、奥書の再検討

第十一章 室町後期に於ける『論語』伝授の様相

――天文版『論語』の果たした役割

第十二章 清原家の学問と漢籍

――『論語』を例として訓点と注釈書との関係を考える

第十三章 吉田家旧蔵の兵書

――慶應義塾図書館蔵『七書直解』等の紹介を兼ねて

第十四章 『佐保切』追跡

――大燈国師を伝称筆者とする書蹟に関する考察

第十五章 伝授と筆耕――呉三郎入道の事績

第十六章 『古文孝経』永仁五年写本の問題点

第十七章 猿投神社の漢籍古写本

――『史記』『春秋経伝集解』の書写者を探る

◎附篇

第十八章 『朝野群載』巻十三の問題点

第十九章 日本漢学史上の句題詩

第二十章 『本朝麗藻』所収の積算詩――句題詩の変型として

第二十一章 藤原有国伝の再検討

第二十二章 大江匡房と藤原基俊

第二十三章 大江匡房の著作と『新撰朗詠集』

第二十四章 平安後期の文章得業生に関する覚書

第二十五章 『玉葉』に見られる課試制度関連記事の検討

第二十六章 平安時代の詩宴に果たした謝霊運の役割

あとがき／初出一覧／図版一覧／索引

貴重資料の
図版収録点数
総50超！

定価 13,200 円(本体 12,000 円)

A5判・上製カバー装・
504頁+カラー口絵16頁
ISBN978-4-585-39033-6 C3091
2023年9月刊行

書名	部数
日本人の読書 古代・中世の学問を探る 佐藤道生 [著]	部
ご送付先住所・氏名（通信欄）	

定価 13,200 円(本体 12,000 円)

A5判・上製カバー装
504頁+カラー口絵16頁
ISBN978-4-585-39033-6 C3091
2023年9月刊行

慶應義塾大学附属研究所斯道文庫〈編〉

訂正新版

図説

書誌学

古典籍

を学ぶ

「書物」という

文化遺産の
継承のために

有史以来蓄積されてきた「書物」は、人間の英知・思想・思考・情感といった精神活動が、最も明瞭に集約表出されたかたちで伝承されてきた、学術文芸の遺産である。

この「書物」は、なぜここにこのように存在するのか——「書物」との真摯な対話により、過去から現在、そして未来へと連なる人間の知的営みの一端に自らリンクすることが出来るのである。

定価三、八五〇円(税込)

本体三、五〇〇円(十税)

二〇二三年一月刊行

A4判並製カバー装・総カラー・二三四頁
ISBN978-4-585-30010-6 C1500

※本書は『図説 書誌学』(二〇一〇年初版発行)の訂正新版です。訂正新版刊行に際し、誤字・脱字等の訂正を施しました。



I 書物との対話——書誌学研究の視点

はじめに——書誌学とは

第一章 本の姿

表紙の役割／紙墨の表情／書物の形／変化する書物

第二章 本の様々

漢籍と和書／漢字と仮名／文字と絵／コトバとモノ

第三章 本の誕生

誕生以前／自筆本／転写本・影写本・臨写本

第四章 本の流通

版下・校正刷り／翻刻本／摸刻本／伝写本

第五章 版本の時代

宋元版／明清版／朝鮮版・越南版／五山版・古活字版／和刻本

第六章 本の再生

付点・書入れ・批評／校合／入門書・工具書

第七章 書誌学の発達

目録学の発達／版本学の発達／考証学と近代

II 斯道文庫の五十年——これまでとこれから

・ 斯道文庫の五十年

・ 書物の収集と保全

・ 椎本文庫／浜野文庫／安井文庫／垣堂文庫／コレディエ文庫／亀井家学文庫／明治弘教社編纂所蔵書／センチユリー文化財団寄託資料／大曾根文庫／河村文庫／平岡文庫／松林桂月文庫／林泰輔

・ 自筆稿本類／ガスパルドス文庫／永島文庫／戸原文庫

・ 斯道文庫年表

・ 斯道文庫蔵書の歴史

・ 出張調査年表

・ 研究事業・研究成果・公開事業

・ 執筆一覧／書誌学用語索引

本書の特徴

昭和三五年(一九六〇)の開設以来、書誌学の専門研究所として学界をリードしてきた斯道文庫所蔵の豊富な古典籍の中から、特に書誌学的観点から重要なものを選出、豊富なカラー図版・解説を掲載することで、書誌学の理念プロセス技術を学ぶことが出来る。



書名

訂正新版 図説 書誌学 古典籍を学ぶ

慶應義塾大学附属研究所斯道文庫〈編〉

冊数

定価 3,850円(税込)・本体3,500円

A4判並製カバー装・224頁
2023年11月刊行

ISBN978-4-585-30010-6 C1500

冊

ご送付先ご住所(通信欄)

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。

東京都千代田区神田三崎町2-18-4 株式会社勉誠社 TEL.03-5215-9021 FAX03-5215-9025 <http://bensei.jp/>

藤本幸夫

〔ふじもと・ゆきお〕富山大学名誉教授、麗澤大学客員教授。専門は朝鮮語学・朝鮮文献学。二〇二一年学士院賞・恩賜賞を受賞。著書に『日本現存朝鮮本研究 集部』（京都大学学術出版会、二〇〇六年）、『日韓漢文訓読研究』（編著、勉誠出版、二〇一四年）、『龍龕手鏡 鑑研究』（編著、麗澤大学出版会、二〇一五年）、『日本現存朝鮮本研究 史部』（韓国東国大学出版部、二〇一八年）などがある。

書物・印刷・本屋

図版点数
390超

日中韓をめぐ 本の文化史

●第一部 書物のかたち・書物のジャンル
●第二部 印刷・活字・技術
●第三部 本屋・商業出版・蔵書

〈本書の特色〉

中国、朝鮮半島、日本に伝播した書物文化は、
全国各地に於いて民間の商業出版——坊刻本——の
深淵かつ絢爛な世界を形づくっていった。
書籍の出版から販売・読書にいたる具体的な諸相、
即ち潤筆料・版下・刻版・彫師・摺師・版木・料紙・装幀・
本屋・貸本屋・書価・出版部数・流通・読者・版株・印刷術・
禁書・和刻・出版統制等々を中心に、
書物史研究を牽引する珠玉の執筆者35名による知見を集結、
390点を超える図版資料を収載した

●書物のジャンル、形態、印刷技術、本屋や商業出版の諸相など、日中韓の書物文化史を詳細に記述したレファレンスツールとして最適の百科事典的書籍。
●書誌学・出版史・印刷史など、書物研究の第一線を走るオールスターが集結した画期的な一冊。
●学士院賞、ゲスナー賞、日本出版学会賞、角川源義賞、岩瀬弥助記念書物文化賞等、様々な受賞歴を有する執筆陣が寄稿。
●390点を超える貴重な図版資料を収載。

日中韓の知の世界を彩る
書物文化を知るためのエンサイクロペディア。

執筆者一覧

●第一部 佐々木孝浩・柏崎順子・木村八重子・棚橋正博・佐藤圭子・鈴木圭一・石上阿希・大久保純一・湯浅淑子・鈴木俊幸・万波寿子・鈴木達彦
●第二部 住吉明彦・堀川貴司・長澤孝三・豊島正之・林進・高木浩明・森上修・小秋元段・渡辺守邦・橋口侯之介・永井一彰
●第三部 鈴木俊幸・塩村耕・長友千代治・岡村敏二・大沼晴暉・大木康・大塚秀高・金文京・上原究一・高橋智・藤本幸夫・李胤錫・全相昱

定価 一七、六〇〇円（税込）
（本体 一六、〇〇〇円）
B5判上製カバー装・八九六頁
二〇二一年六月刊行
ISBN978-4-585-30002-1 C3000

書 名		部 数
書物・印刷・本屋 日中韓をめぐる本の文化史	定価 17,600円・本体16,000円	部
	B5判上製カバー装・896頁 2021年6月刊行 ISBN978-4-585-30002 C3000	
藤本幸夫 [編]		
ご送付先ご住所（通信欄）		

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

相国寺

Shokoku-ji

寺宝が伝える
歴史と
信仰

京都五山第二位の禅刹、相国寺。

足利義満開基によるこの禅寺は、

歴代足利將軍ゆかりの寺院、

また渡来僧を含む数々の禅僧が交流した

五山文学の発信地として、

中世日本において大きな存在感を持った。

しかし、たびたびの伽藍焼失などの憂き目に遭い、

衰退と再興を繰り返し、

近世初期には後水尾院による手厚い庇護のもと、

現在に伝わる姿を形成していった。

禅僧たち、そして足利將軍家、天皇家により、

守り、伝えられてきた寺宝は何を語るのか――

斯界をリードする十五人の執筆により

本山相国寺そしてその塔頭の営みを明らかにする。

序文・相国寺の什物が語る歴史・本多潤子

第一部 相国寺と將軍家・天皇家

足利義満と相国寺・芳澤元

相国寺派塔頭と寺内秩序・足利將軍家との結びつきから・高島廉

天皇と相国寺・後小松院宸翰を中心に・本多潤子

第二部 祖師像から見えるもの

夢窓疎石の頂相と無等周位

——妙智院本・慈照院本・相国寺本を中心に——高橋真作

坐禅する夢窓疎石と観音・川本慎自

歴代頂相の伝来と絵師——相国寺と明兆・森道彦

定価 2,200円・本体 2,000円
B5判・並製カバー装・104頁
2025年8月刊行
ISBN978-4-585-30728-0 C1000
【書物学28】



書物学
28

第三部 祈りの対象としての仏画

開基足利義満の肖像と追善仏事について

——「足利義満像・厳中周璽贊」を中心に——立畠敦子

羅漢図像を用いる儀礼空間——陸信忠筆「十六羅漢図」——西谷功

二十八部衆と中尊——本多潤子

相国寺の名宝!?——世尊説相図——郷司泰仁

相国寺塔頭に伝わる音楽神——妙音弁財天像（大光明寺蔵）——猪瀬千尋

第四部 相国寺と経蔵

相国寺経蔵安置の大日如来像・鯨井清隆

宝塔再建と護持——本多潤子

相国寺経蔵の大蔵経・須田牧子

第五部 伽藍を荘厳するモノ

近世前期における三具足の製作と供給体制

——相国寺蔵胡銅三具足の検討を中心に——山本堯

今出川通をとびこえた子犬たち

——開山堂杉戸絵「芭蕉狗子図」——円山応挙筆——上嶋悟史

忘れられた唐絵——伝牧谿筆「柿栗図」（相国寺蔵）をめぐる——加藤祥平

美術館紹介・相国寺承天閣美術館——本多潤子

相国寺承天閣美術館（編）

書名

相国寺——寺宝が伝える歴史と信仰
相国寺承天閣美術館（編）

冊数

定価 2,200円・本体 2,000円
B5判・並製カバー装・104頁
2025年8月刊行
ISBN978-4-585-30728-0 C1000
【書物学28】

冊

ご送付先ご住所（通信欄）

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

新装版

源氏物語の
話声と表現世界

『源氏物語』は、書かれた言葉によってこの世に存在している。

その言葉は、物語中の随所で、複雑にしてゆたかな意味を生成しているが、同時にそれは、単なる書き言葉ではなく、作中人物の発言あるいは心中の言葉、さらに物語を口頭で伝える人、それを書き取る人、書かれた言葉を書き写す人、編纂する人……等々のさまざまな声が重なりあっている言葉として、異彩を放っているようにおもわれる。それらのさまざまな声Ⅱ「話声」から、『源氏物語』の言葉の魅力と特質とを解き明かしてゆく。

はしがき／凡 例
序章 『源氏物語』の言葉といかに向きあうか

Ⅰ 『源氏物語』の話声

- 第一章 作中人物の話声と〈語り手〉
重なりあう話声の様相
- 第二章 『源氏物語』古注釈における本文区分
「光源氏物語抄」を中心に
- 第三章 『源氏物語』の〈語り〉の本性
作中人物どうしの話声の重なりあい
- 第四章 女房の話声とその機能
「末摘花」巻の大輔命婦の場合
- 第五章 〈語り手〉の待遇意識
貴公子に対する待遇表現

Ⅱ 光源氏をめぐる〈語り〉——第二部とその前後

- 第六章 光源氏をもどく鬚黒——出来損ないの〈色好み〉が拓く物語世界
- 第七章 六条院世界をみつめる明石の君
明石の尼君の待遇表現の分析から
- 第八章 秋好中宮と光源氏——第二部における二人の関係性をめぐって
- 第九章 六条御息所の死霊と光源氏の罪——死霊の語った言葉の分析から
- 第十章 「柏木・女三の宮事件」後の〈語り〉——薫誕生と女房たちの沈黙
- 第十一章 光源氏の最後の「光」——「幻」巻論
- 第十二章 「光源氏の物語」としての「勾宮三帖」
「光隠れたまひにしのち」の世界

Ⅲ 『源氏物語』の話声と〈書く〉こと——物語世界を超えて

- 第十三章 紫式部という物語作家——物語文学と署名
- 第十四章 物語作家と書写行為——『紫式部日記』の示唆するもの
- 第十五章 『源氏物語』と書写行為——書写者の話声
- 第十六章 『源氏物語』と唐代伝奇——物語伝承の仮構の方法
- 第十七章 『源氏物語』のヘテロフォニー——重なりあう話声と〈読む〉こと

初出一覧／あとがき

索引——Ⅰ事項・人名・書名等索引／Ⅱ『源氏物語』作中人物名・巻名等索引

陣野英則〈著〉

定価 11,000円・本体10,000円
A5判・並製カバー装・400頁
2025年10月刊行
ISBN978-4-585-39055-8 C3091

書 名	冊 数
新装版 源氏物語の話声と表現世界 陣野英則〈著〉	冊
ご氏名／ご送付先ご住所（通信欄）	

定価 11,000円・本体10,000円
A5判・並製カバー装・400頁
2025年10月刊行
ISBN978-4-585-39055-8 C3091

だいごじぶんかざいけんきゅうじょ けんきゅうきよう

醍醐寺文化財研究所 研究紀要 第24号

学界初公開を含む醍醐寺に伝来する貴重史料を紹介。
諸分野に裨益する研究基盤を提供する。

第24号 目次

カラー口絵

堯円法印印可授与記／書写山奥院指図／書写山三堂指図／書写山如意輪堂指図／倭名類聚抄

《史料紹介》醍醐寺蔵「堯円法印印可授与記」…藤井雅子

《史料紹介》醍醐寺蔵「書写山図」…山岸常人

醍醐寺蔵『往事南』翻刻 附 解題・目録・索引…説話研究会

醍醐寺蔵『倭名類聚抄』室町後期写本断簡…佐々木勇

研究彙報

醍醐寺文化財研究所規程

醍醐寺文化財研究所研究員名簿

編集後記

醍醐寺文化財研究所 [編]

古文書・聖教の調査に携わる研究員によって発足。以後、醍醐寺に伝わる極めて多彩な文化財の保存のために、絵画・彫刻・建築の専門研究者も加わって、活動の幅を広げ、現在に至る。

定価 2,750 円 (本体 2,500 円)

B5判並製・128頁+カラー口絵12頁
ISBN 978-4-585-31302-1 C3014
2024年9月刊行 【不定期刊行】

書 名		部 数
醍醐寺文化財研究所研究紀要 第 24 号 醍醐寺文化財研究所[編]		定価 2,750 円（本体 2,500 円） B5判並製・128頁+カラー口絵12頁 ISBN978-4-585-31302-1 C3014 2024 年 9 月刊行
既刊 第23号 (在庫僅少)	定価 2,750 円(本体 2,500 円) B5 判・並製 128 頁 978-4-585-21301-7 C3014	定期 醍醐寺文化財研究所研究紀要 第25号以降定期
ご送付先ご住所（通信欄）		

杜甫詩論考

Dǔfǔ shī

Lùn kǎo

「詩聖」と称される杜甫。その生涯で多数の詩を残しており、後世に仇兆鰲が編纂した『杜甫集』には一四五七首が収録されている。しかし『杜甫集』成立以降、収録される詩数は増加し、偽作の疑いが濃いものも多くある。本書では、杜甫の作かどうか疑念が持たれている詩について精査し、真作か、偽作か、それとも他詩人の集から誤って入り込んだものなのか、その実情を考察。また、杜甫の詩に用いられる詩語、杜甫の交友関係から生まれた詩などについて、資料を精査し、作品を丁寧に読み直すことで解明された最新の知見を提示する。

緒言

Ⅰ 杜甫詩の真偽

「夜宴左氏莊」札記
「杜鵬行」札記
「虢国夫人」札記
「避地」札記
「哭長孫侍御」札記
「狂歌行、贈四兄」札記
「江南逢李龜年」について
「過洞庭湖」札記
「佚詩」五篇などについて

Ⅱ 杜甫の詩と詩語

「朱門酒肉臭」札記——杜甫「自京赴奉先縣詠懷五百字」
「家書」は届いたか——杜甫「春望」の「家書抵萬金」について
「家中」とは妻のことか——杜甫「縛雞行」について
「帶」の用法から見た杜甫の詩
杜甫の詩と「鯨魚」
杜甫の詩における「殘生」などの語について
杜甫「蚕穀行」の諸問題
杜甫「客從」と元結「春陵行」——作詩の契機について
杜甫「別董頴」詩について
杜甫と韋諷——杜甫晩年の応酬詩

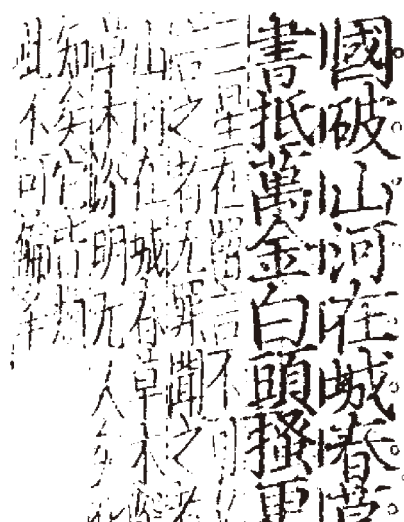
附編 杜甫はいつから「詩聖」になったか

結語／初出一覧／杜甫詩賦題名索引

後藤秋正

〈著〉

東京教育大学文学部漢文学専攻卒業。同大学院博士課程中国古典文学専修単位取得退学。北海道教育大学教授を経て、名誉教授。博士(文学)。日本杜甫学会理事。唐代文学、特に杜甫の文学を専門とする。著書に『中国中世の哀傷文学』(研文出版、一九九八年)、『唐代の哀傷文学』(研文出版、二〇〇六年)、『食の名言辞典』(東京書籍、一九九九年、分担執筆)、『詩語のイメージ』(唐詩を読むために) (松本肇と共編著、東方書店、二〇〇〇年)、『陶淵明——詩と酒と田園』(東方書店、二〇〇六年、分担執筆)、『杜甫全詩訳注』(講談社学術文庫、二〇一六年、分担執筆)、『杜甫と玄宗皇帝の時代』(勉誠出版、二〇一八年、分担執筆)がある。



定価 11,000円・本体10,000円
A5判・上製カバー装・488頁
2025年10月刊行
ISBN978-4-585-39054-1 C3098

書名

冊数

杜甫詩論考

後藤秋正〈著〉

定価 11,000円・本体10,000円
A5判・上製カバー装・488頁
2025年10月刊行
ISBN978-4-585-39054-1 C3098

冊

ご氏名／ご送付先ご住所（通信欄）

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

後藤昭雄 [著]

(ことう・あきお) 大阪大学名誉教授。専門は日本漢文学。
主要著書に、『平安朝漢文学論考』(桜楓社、一九八二年。補訂版、勉誠出版、二〇〇五年)、『本朝文粹』(共校注、新日本古典文学大系、岩波書店、一九九二年)、『平安朝漢文学の研究』(吉川弘文館、一九九三年)、『日本古代漢文学与中国文学』(日本中国学文庫、中華書局、二〇〇六年)、『大江匡衡』(人物叢書、吉川弘文館、二〇〇六年)、『平安朝漢文学史論考』(勉誠出版、二〇〇三年)、『本朝漢詩文資料論』(勉誠出版、二〇〇三年)、『平安朝漢詩文の文体と語彙』(勉誠出版、二〇〇七年)など。

平安朝詩文論集

平安朝において漢詩文は、学問の中心として大きな位置を占めていた。

国家儀礼はもとより、官吏登用試験、公的な宴の場や歴史書編纂、さらには宗教の場などにおいても、

漢学の素養の有無がそこに関わる人物の評価に大きく関わるものであった。

平安朝の文人たちが残した漢文資料の一字一文字と真摯に向き合い、内容を読解。

彼らの学問環境、史的位置づけと重ね合わせることで、

平安朝の漢詩文をめぐる歴史的状況を明らかにする。

長年に亘って平安朝の漢文学研究に携わってきた著者の最新論文集。

[目次]

はじめに

一 文学史研究

- 1 平安朝における『孝経』の受容
- 2 平安朝人は『後漢書』をいかに読んだか
——吉川忠夫訓注『後漢書』第一冊を読んで
- 3 中国へ伝えられた日本人の著作——淡海三船の『大乘起信論注』
- 4 淡海三船「南山の智上人に贈る」詩について
- 5 「銅雀台」——勅撰三集の楽府と艶情
- 6 嵯峨朝における「新楽府」受容について
- 7 日唐間における経典の往還——『千手儀軌』の伝流
- 8 仁明朝の官廷文学と東アジア
- 9 桜の文学小史
- 10 菅原是善の願文と王勃の文章
- 11 延喜二十二年大宰府返牒考
- 12 『言泉集』所引の平安中期願文資料
- 13 尚歯会と書と絵
- 14 平安朝における白居易「劉白唱和集解」の受容
- 15 大江匡衡と『文選』
- 16 呉越と平安朝の漢学
- 17 『本朝文粹』の文人——上位入集者とその作品
- 18 『本朝文粹』の一首の詩序と『明衡往来』の一通の書状
- 19 白居易「論友詩」の本文——我が国に残る古写本

二 文人伝研究

- 20 『経国集』の作者序論
 - 21 空海の周辺——勅撰詩集作者との交渉
 - 22 勅撰三集の詩と歴史学
 - 23 『扶桑集』の詩人
 - 24 文人たちの交友——藤原行成を軸として
 - 25 源為憲と藤原有国の交渉について
 - 26 創り出された平安朝詩人——『本朝一人一首』の過誤
 - 27 【付載】史料所載平安朝詩題索引
- あとがき
索引

定価 一三、二〇〇円 (本体 一〇、〇〇円)

A5判・上製・五二八頁
二〇二四年八月刊行
ISBN978-4-585-39043-5 C3090

書名	部数
平安朝詩文論集 後藤昭雄 [著]	部
ご送付先ご住所・氏名 (通信欄)	

定価 13,200 円(本体 12,000 円)

A5判・上製カバー装・528頁
ISBN978-4-585-39043-5 C3090
2024年8月刊行

平安時代における漢語の受容と創造に迫る

平安期寛弘年間（一〇四〇～一〇二二）に編纂された宮廷官僚詩人の漢詩文集『本朝麗藻』。

王朝漢文学が日本語文学への分化・解体にむかうこの時期に成立した

『本朝麗藻』の収録語を仔細に検討し、その「語性」を考察。

唐以前・唐代の詩文、とくに白詩との関連を探索し、

また作品成立の背景となった史実と、作者の置かれた状況にも言及。

『本朝麗藻簡注』（勉誠社、一九九三年）を全面的に改訂。『本朝麗藻』の内実に迫る。

本朝麗藻詳注

ほんちょうれいそう

柳澤良一 著

（やなぎさわ りょういち）

金沢大学大学院修士課程修了。金沢学院大学名誉教授。主な著書に『本朝麗藻総索引』（勉誠社、一九九三年）、『統撰和漢朗詠集とその研究』（和泉書院、二〇〇一年）、『石川県立図書館蔵 川口文庫善本影印叢書』全三巻（勉誠出版、二〇〇八年～二〇一〇年）、『新撰朗詠集全注釈』全四巻（新典社、二〇一一年）、『和漢朗詠集・新撰朗詠集』（佐藤道生と共著、明治書院、二〇一一年）、『菅家後集の研究』（汲古書院、二〇一二年）など。

二〇二三年
十二月刊行

定価 30,800 円(税込)

[本体28,000円]

B5判並製カバー装・928頁

ISBN978-4-585-39030-5 C3091

勉 誠 社

本文

上巻は尊経閣文庫蔵金沢文庫旧蔵本、下巻は尊経閣文庫蔵建暦三年清寛
加定の奥書をもつ江戸初期の写本を底本とした。
底本の明らかな誤りや欠佚、判読不能の箇所はその他諸本によって補った。
利便性を考慮し、返り点・句読点および通し番号を付した。

通解

原文の理解に役立つ「通解」を掲載。作品には、比喩や見立てなどの
表現を使って詩のイメージをふくらませているものが多数見られる
ので、詩のイメージを損ねないように言葉を選んだ。

春

1 三月三日、侍宴同賦三間柳発紅桃、応製。〔以春
為韻〕 儀同三司

三日花朝和暖辰
紅桃間柳発粧新
烟濃纔透綫山月
黛動半蔵曲水春
碧玉簾中裁錦妓
青羅帳後拳燈人
震遊如舊群臣醉
醉意詠歌魏代塵

校異

本朝麗藻諸本との
校異を示す。底本の
本文と異なる場合
はすべて掲出した。

【校異】

底ナシ。群・新・全・紀によって補う。
◇春一私にかりに補う。 ◇応口製一群活・全「応製」。 ◇儀同三司一群・
新「儀同三司」の右旁「伊周」。全「儀同三司」「伊周」。紀「藤原伊周」。
◇後一紀「裡」。 ◇震一紀「宸」。

【訓読】

春
三月三日、宴に侍りて同じく「柳に間はつて紅桃発く」といふこ
とを賦し、製に応へまつる。〔「春」を以て韻と為す。〕 儀同三司
三日 花の朝 和暖の辰
紅桃柳に間はつて粧ひを發くこと新たなり
烟濃やかにして纔かに透きたり 綫山の月
黛 動きて半ば蔵れたり 曲水の春
碧玉の簾の中 錦を裁つ妓あり

【通解】

春
三月三日、上巳の節句、曲水の宴に伺候し、皆で「柳に間はつ
て紅桃発く」（青柳に交じわって紅の桃花が咲く）の詩題で詩を作り、
勅命にお応えして詠進する。「春」字を韻字とする。

花の咲いている三月三日の朝は、穏やかで暖かな日和で、
桃の紅色の花は、青柳に交じわって咲き、今、新たに化粧をしたばかり
のようである。

夕暮れになって、春の霏が濃くたちこめる頃、そのとたんに桃で有名な
綫山から月が出てきて、柳の間から透けて見える。

揺らめく青柳に半ば隠れて桃の紅色の花が見え、今を盛りとする曲水の
春景色は美しい。

辺りの情景は、あたかも碧玉の御簾の内にあでやかな錦の晴着を仕立て
て着ている舞姫が、かすかに見えるかのようであり、

また、青色の薄絹の帳の後ろで、燈火を持つ人が、ほのかに見えるか
のようである。

このすばらしい宴は旧に復したかのごとく華やかで、我々群臣はみな快
く桃花の酒に酔っている。

この酔い心地、この詩歌を詠む宴は、魏の時代の曲水の宴をそのまま受
け継いでいるのではないかと思われる。

本朝麗藻

（ほんちよう・れいそう）漢詩文集。高階積善撰。全二五四首の詩を収録。春・夏・秋およ
び雑題で構成される。約三〇年間という短い期間の作品を集め、漢文学繁栄の様子を伝
える。天皇・親王主催の詩会を収める一方、山荘や寺院における詩もおおく収録する。

書名

本朝麗藻詳注

柳澤良一＝著

ご送付先ご住所（通信欄）

冊数

定価30,800円(税込)

[本体28,000円]

2023年12月刊行

B5判並製カバー装・928頁

ISBN978-4-585-39030-5 C3091

冊

湯沢質幸 [著]

日本人は 漢文を どう読んだか 直読から訓読へ

日本において古代から現在に至るまで延々と読み継がれてきた漢文。その読み方には中国から渡来した中国音で読む〈直読〉、そして、平安時代に生まれ、漢文読解の方法としてその地位を確立した〈訓読〉の二種類が存在する。

しかし、古代から現代までの間に〈直読〉は消え、日本語で読む〈訓読〉がもっぱら使われるようになった。なぜ、日本では〈訓読〉優位の状況が生じたのか――

漢文を取り巻く環境を一つ一つ分析することを通して、〈直読〉から〈訓読〉への変化を追い、日本人の漢字漢文受容の歴史を描きます。

目次

本書の目的

凡例

第一章 直読と訓読

――現代と平安時代――

第二章 平安時代儒学界の直読と訓読

――『宇津保物語』と『北山抄』『江家次第』――

第三章 〈直読から訓読へ〉

――直読の衰退――

第四章 平安時代の訓読

――『白氏文集』――

第五章 『宇津保物語』 併存の再検討

第六章 平安時代儒学界と直読

第七章 儒学界と仏教界

第八章 〈直読から訓読へ〉の周辺

結語／参考文献／後記

執筆者紹介

湯沢質幸 (ゆざわ ただゆき)

一九四三年群馬県前橋市生まれ。

専門は日本語史研究。

東京教育大学文学部研究科修士課程修了。

博士(文学)筑波大学。佐伯国語学賞。山

形大学・筑波大学・京都女子大学に勤務。

著書に『唐音の研究』(勉誠社、一九八七

年)、『日本漢字音史論考』(勉誠社、一九

九六年)、『古代日本人と外国語』(同増

補改訂) (勉誠出版二〇一一年)、『音声・

音韻探求法』(松崎寛と共著、朝倉書店、

二〇〇四年)、『近世儒学韻字と唐音』

(勉誠出版、二〇一四年)、『漢字は日本で

どう生きてきたか』(開拓社、二〇一七

年)などがある。

定価 3,520 円(本体価格 3,200 円)

四六判・並製カバー装・240頁
ISBN978-4-585-38006-1 C1081
2024年5月刊行

書名	部数
日本人は漢文をどう読んだか 直読から訓読へ 湯沢質幸 [著]	部
ご送付先ご住所・氏名 (通信欄)	

本書の目的
凡例

第一章 直読と訓読―現代と平安時代―

- 1 現代の直読と訓読
- 1―1 直読〔中国語文・字音声読〕
- 1―2 訓読〔日本語訳文＝直訳文・日本語音声読〕
- 2 平安時代の直読と訓読
- 2―1 直読〔中国後古典文＝漢文・呉音漢音声読〕
- 2―2 訓読〔日本語訳文＝直訳文・日本語音声読〕
- 3 現代と平安時代
- 4 平安時代儒学界

第二章 平安時代儒学界の直読と訓読

- ―「宇津保物語」と「北山抄」「江家次第」―
 - 1 「宇津保物語」講書における直読と訓読
 - 1―1 「一度は訓、一度は音に」―直読訓読併存―
 - 1―2 「手づから点し」―加点点者仲忠―
 - 1―3 「果てに、一度は訓、一度は音に読ませたまひて」
―解義後の声読―
 - 1―4 「読む」の意味
 - 1―5 「宇津保物語」の情報―直読訓読併存等―
 - 2 「北山抄」「江家次第」積算における直読と訓読
 - 2―1 「北山抄」
 - 2―2 「江家次第」
 - 2―3 積算での直読訓読併存
 - 3 「宇津保物語」と「北山抄」「江家次第」―併存―
 - 3―1 「宇津保物語」の併存
 - 3―2 「北山抄」「江家次第」の併存
- 第三章 〈直読から訓読へ〉―直読の衰退―
- 1 直読消滅の時期
 - 1―1 直読の儒書
 - 1―2 漢音加点点「蒙求」
 - 1―3 唐音直読論
 - 2 直読消滅の原因と過程―外因説―
 - 2―1 直読消滅と日中関係―遣唐使廃止―
 - 2―2 直読消滅と朝廷・大学寮の衰退
 - 2―3 外因説の可能性と限界―内因説の検討―

第四章 平安時代の訓読―「白氏文集」―

- 1 「白氏文集」「新楽府」「海漫々」
- 2 直読の可能性
- 3 訓読と訳読との比較
- 4 訓読と訳読（1）―文・声読―
- 4―1 文
- 4―2 声読
- 4―3 相違と情報
- 5 訓読と訳読（2）―文・声読以外―
- 5―1 紙面における相違
- 5―1―1 呈示場所
- 5―1―2 呈示方法
- 5―1―3 呈示における相違と情報
- 5―2 補読

6 訓読と訳読（3）―補読―

- 6―1 「訓読文」の補読
 - 6―1―1 漢字
 - 6―1―2 送り仮名―「無ク・最モ・深キ」―
 - 6―2 補読使用語選択の実際
 - 6―2―1 漢字―「海」「漫々」―
 - 〔コラム〕儒書呉音使用
 - 6―2―2 送り仮名―「無ク・深キ」―
 - 6―3 補読における訓読と訳読
 - 6―4 無加点点の理由―失念説と委託説―
 - 6―5 補読と文の完成・声読
 - 6―6 声読における訓読と訳読
 - 6―7 補読における相違と情報
 - 7 訓読と訳読（4）―文再生における複雑さと労力―
 - 8 直読と訓読
 - 8―1 文
 - 8―2 声読
 - 8―3 直訳文呈示場所等
 - 8―4 補読
 - 9 再度「宇津保物語」へ
- 第五章 「宇津保物語」併存の再検討
- 1 訓読先行・直読後行
 - 2 訓読先行＝訓読優先
 - 3 訓読優先＝解義重視
 - 4 加点点漢文における併存―加点点漢文化即訓読―
 - 5 訓読先行と天皇
 - 6 直読先行・訓読後行
 - 7 加点点漢文併存における訓読優先（1）
 - 8 加点点漢文併存における訓読優先（2）
 - 9 末尾直読の消滅―加点点漢文における直読―
 - 9―1 末尾直読の存在価値
 - 9―2 末尾直読の存在理由
 - 9―3 末尾直読の消滅理由
 - 10 漢文読解の目的と直読
 - 11 〔二表記、一文、一読〕と末尾の直読
 - 12 直読の全面的消滅―加点点漢文から漢文全体へ―
 - 〔コラム〕訓点は封印
 - 13 「北山抄」「江家次第」の併存―直読先行・訓読後行―
- 訓読と訳読・直読の比較再考

第六章 平安時代儒学界と直読

- 1 朝廷・大学寮の衰退と漢音直読
- 2 大学寮衰退
- 2―1 大学寮焼失
- 2―2 家学化
- 2―3 明経家の音博士吸収
- 3 大学寮衰退からの説明の限界
- 4 音道・音博士の消滅
- 5 鎌倉時代の音道・音博士
- 6 鎌倉時代の武家と直読
- 7 儒学界での直読消滅

第七章 儒学界と仏教界

- 1 共通点
- 2 相違点
- 2―1 直読一部残存と完全消滅
- 2―2 訓読成立時期の遅速
- 2―2―1 奈良時代直読における両界の相違
- 2―2―2 儒学界訓読成立の時期
- 2―2―3 訓読成立後―直読消滅時期の遅速―

第八章 〈直読から訓読へ〉の周辺

- 1 直読の新生
 - 1―1 唐音直読
 - 1―1―1 中世唐音
 - 1―1―2 近世唐音
 - 1―1―3 唐音直読と呉音漢音直読
 - 〔コラム〕唐音直読と寛政異字の禁
 - 1―2 現代中国字音直読
 - 〔コラム〕直読論の誤解と限界
 - 1―3 新来字音直読の定着
 - 1―4 新音直読と訓読
 - 1―5 訓読は国風文化
 - 2 訓読の先駆け―加点点漢文の土台―
 - 2―1 変体漢文―「古事記」―
 - 2―1―1 「古事記」と「訓読文」
 - 2―1―2 補読
 - 2―1―3 日本語文呈示における変体漢文
 - 2―1―4 外国語文と複数の翻訳文
 - 2―1―5 変体漢文の声読
 - 〔コラム〕書き下し文
 - 2―1―6 変体漢文と加点点漢文・漢文
 - 2―1―7 変体漢文と加点点漢文―「訓読」と訓読―
 - 2―1―8 宣命書き文―「続日本紀」―
 - 2―2 万葉仮名文―「万葉集」―
 - 2―3 訓読の先駆け
 - 3 朝鮮の「訓読」
- 結語
参考文献
後記